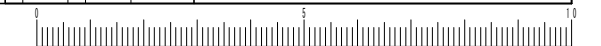
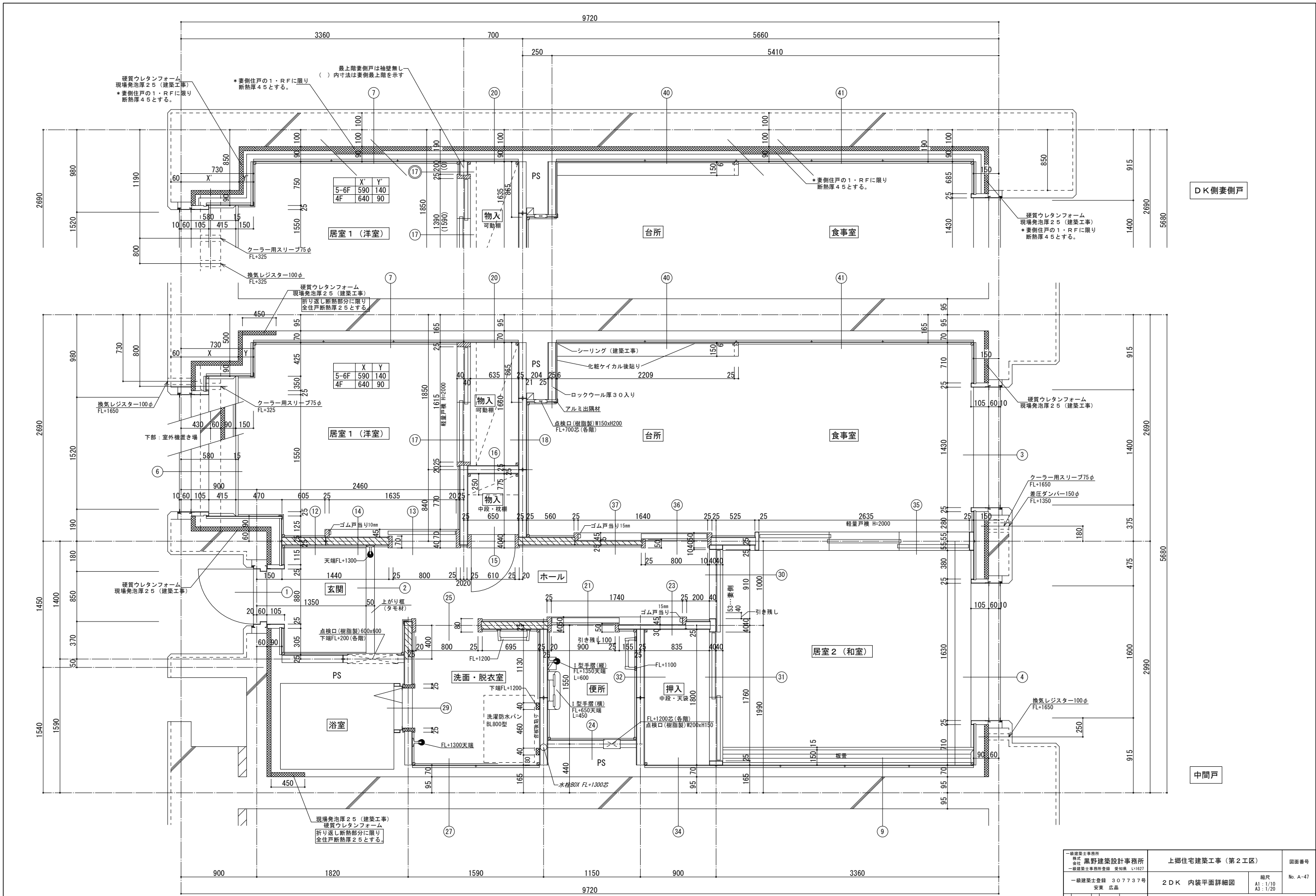


S=1/5

一般建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 L11627 一級建築士登録 307737号 安東 広品	上郷住宅建築工事(第2工区) 部分詳細図(EXP・J)	図面番号 No. A-46 縮尺 A1: 1/200, 1/5 A3: 1/400, 1/10
概図 製図 設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	



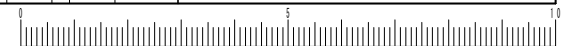


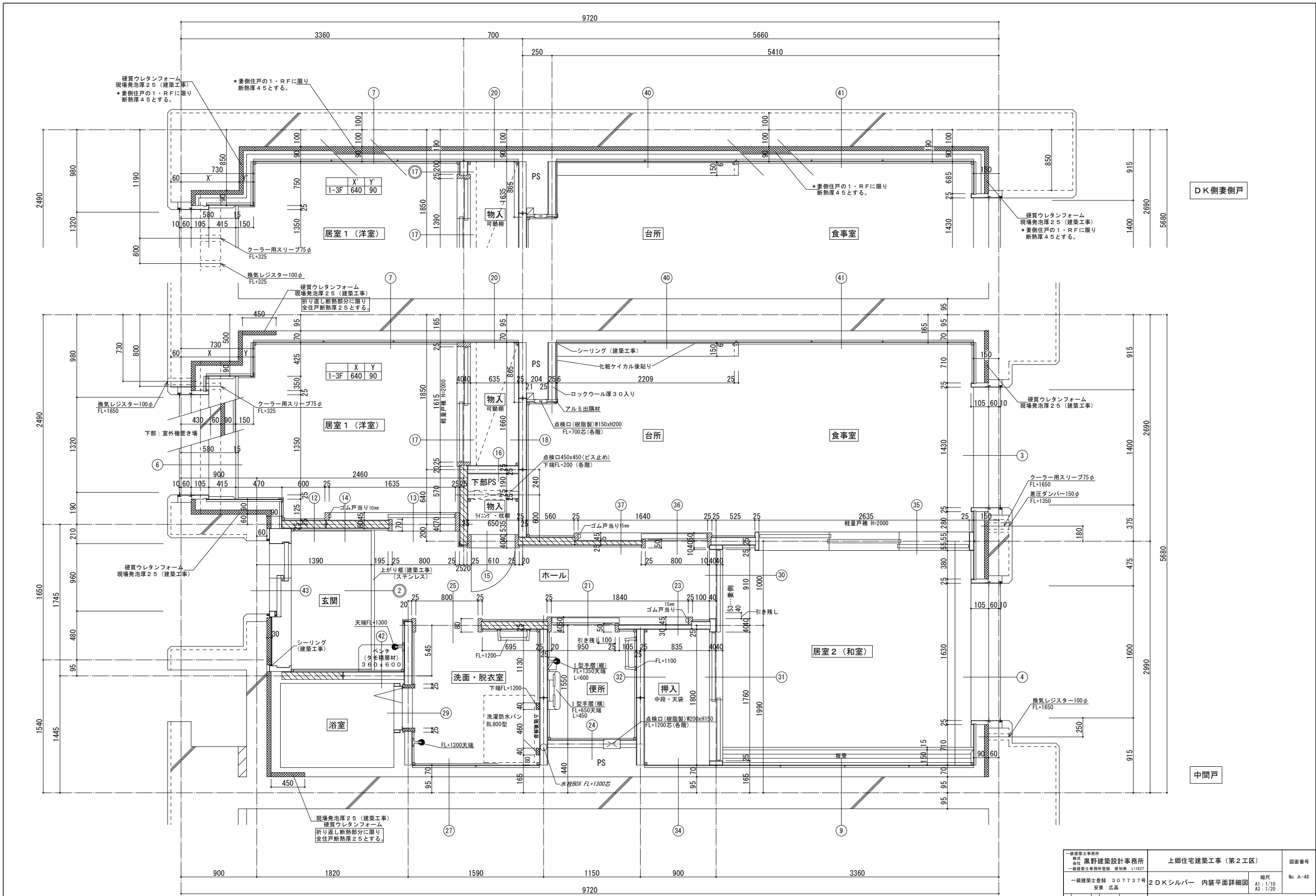
D K 側妻側戸

中間戸

間仕切パネル内の斜線部分は将来手摺補強を示す。  
(玄関・ホール FL+800)

一般建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一般建築士事務所登録 愛知県 L11627		上郷住宅建築工事 (第2工区)		図面番号 No. A-47
一般建築士登録 307737号 安東 広品		2DK 内装平面詳細図		縮尺 A1: 1/10 A3: 1/20
概図	装図	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	



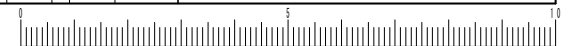


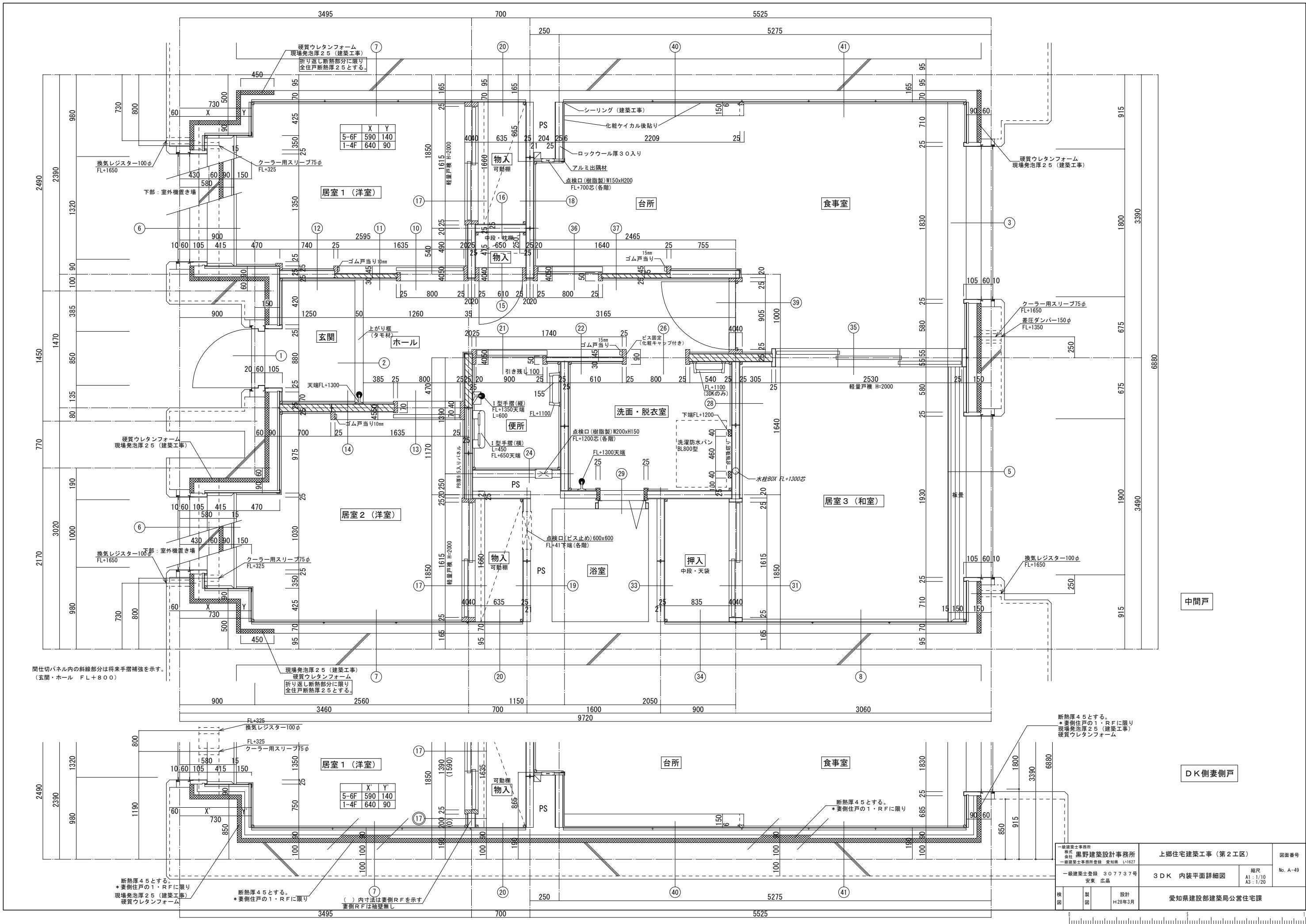
D K 側妻側戸

中間戸

間仕切パネル内の斜線部分は将来手摺補強を示す。  
(玄関・ホール FL+800)

一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 L11627	上郷住宅建築工事 (第2工区)	図面番号 No. A-48
一級建築士登録 307737号 安東 広品	2DKシルバー 内装平面詳細図	縮尺 A1: 1/10 A3: 1/20
検 査 製 図 設 計	H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課





間仕切パネル内の斜線部分は将来手摺補強を示す。  
(玄関・ホール FL+800)

断熱厚 4.5とする。  
\*妻側住戸の1・RFに限り  
現場発泡厚 2.5 (建築工事)  
硬質ウレタンフォーム

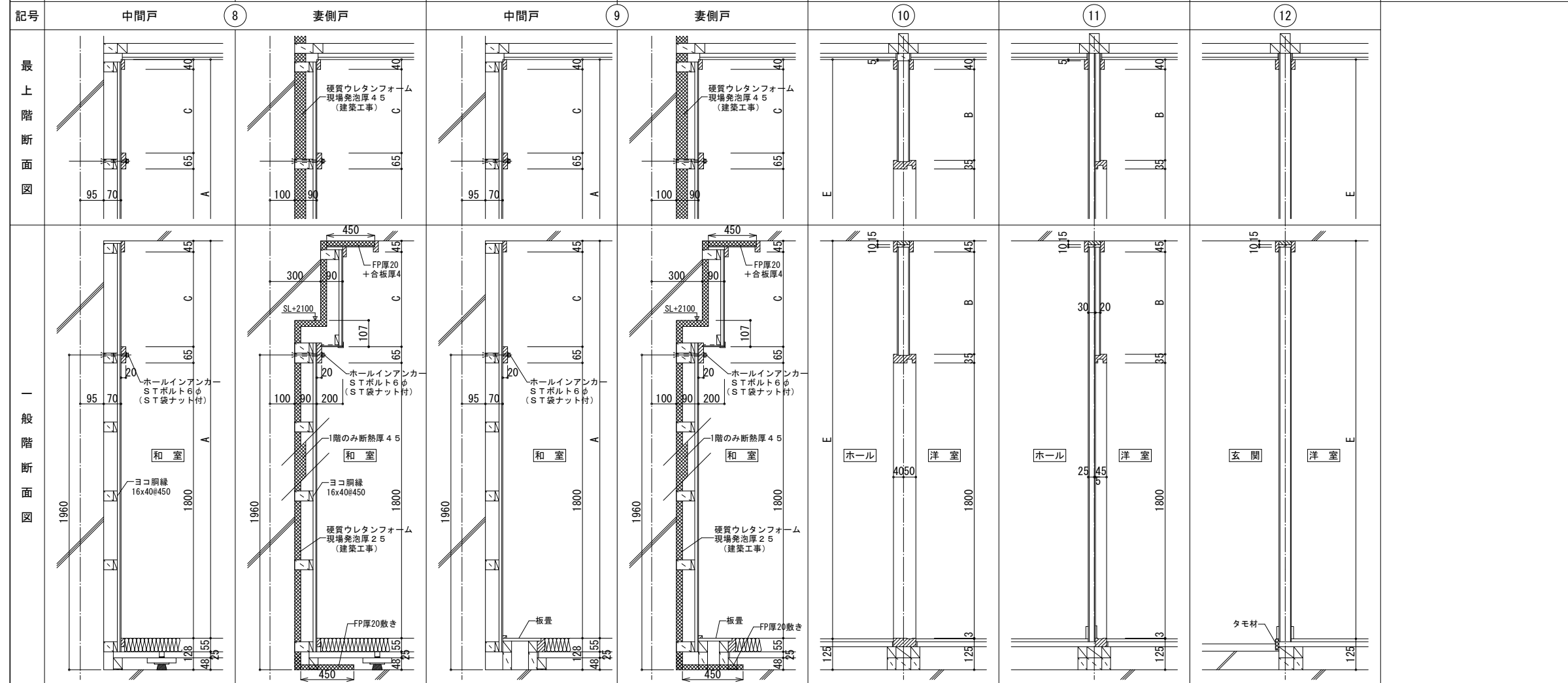
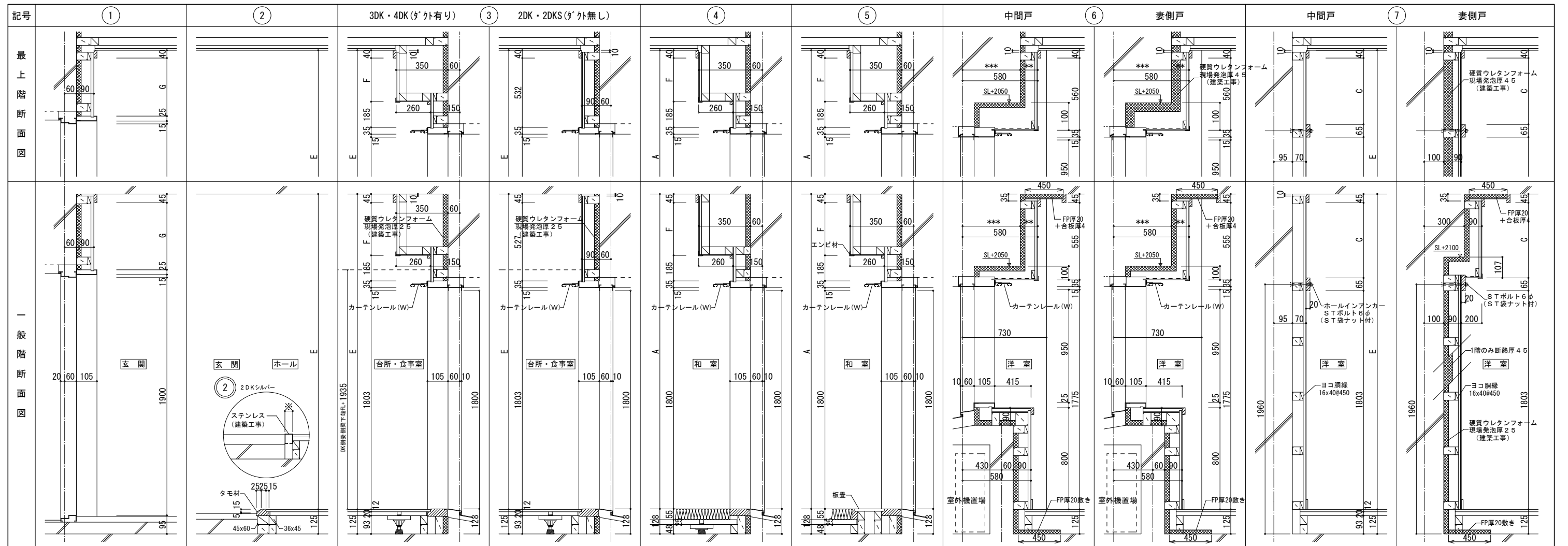
断熱厚 4.5とする。  
\*妻側住戸の1・RFに限り

( ) 内寸法は妻側RFを示す  
妻側RFは粗壁無し

断熱厚 4.5とする。  
\*妻側住戸の1・RFに限り  
現場発泡厚 2.5 (建築工事)  
硬質ウレタンフォーム

建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 〒110-0001 東京都台東区根岸 1-16-27 黒野建築設計事務所 告知書 L11627	上郷住宅建築工事 (第2工区)	図面番号 No. A-49
一級建築士登録 307737号 安東 広品	3DK 内装平面詳細図	縮尺 A1: 1/10 A3: 1/20
棟 図 装 図 設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

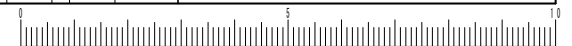


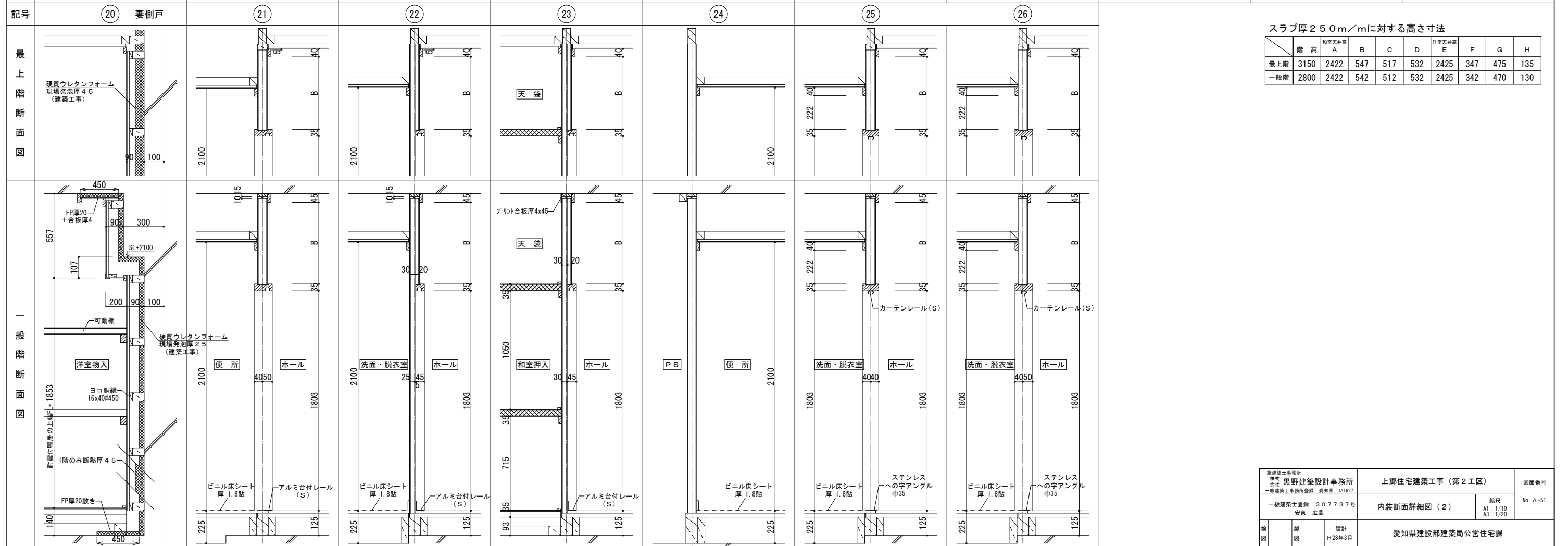
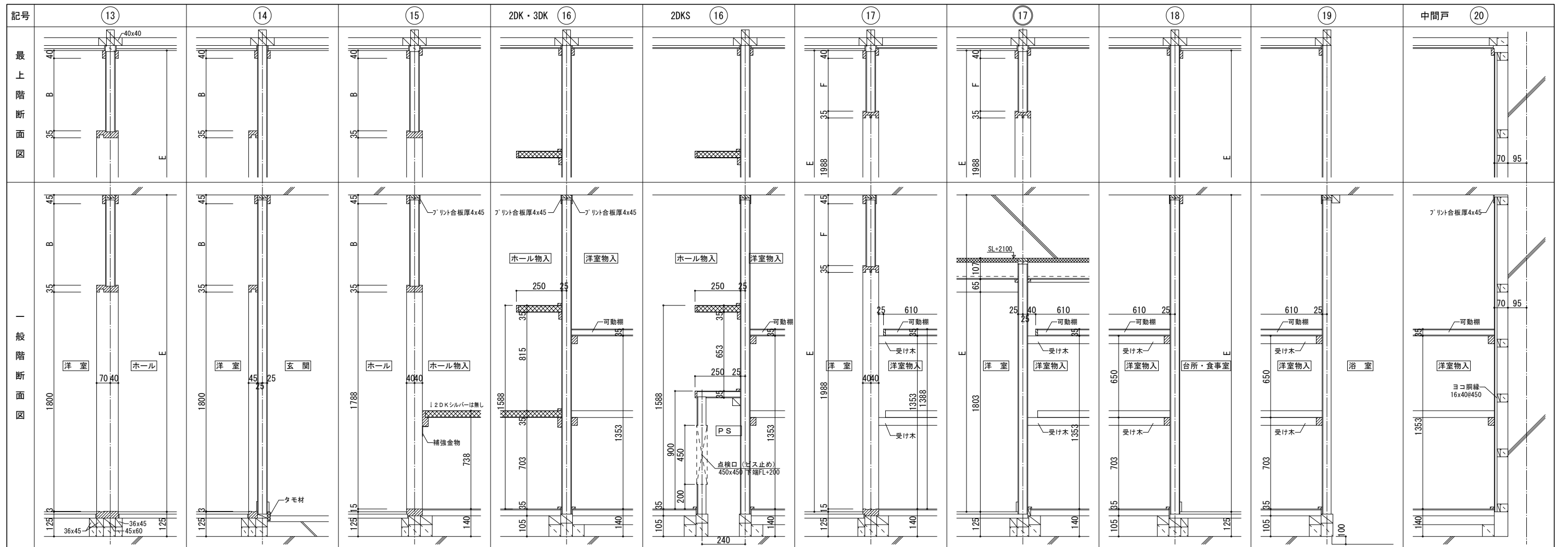


スラブ厚250mm/mに対する高さ寸法

階高	和室天井高	A	B	C	D	洋室天井高	E	F	G	H
最上階	3150	2422	547	517	532	2425	347	475	135	
一般階	2800	2422	542	512	532	2425	342	470	130	

一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 L11627	上郷住宅建築工事 (第2工区) 内装断面詳細図 (1)	図面番号 No. A-50 縮尺 A1: 1/10 A3: 1/20
一級建築士登録 307737号 安東 広品	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課

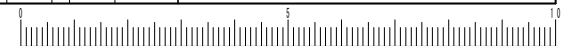


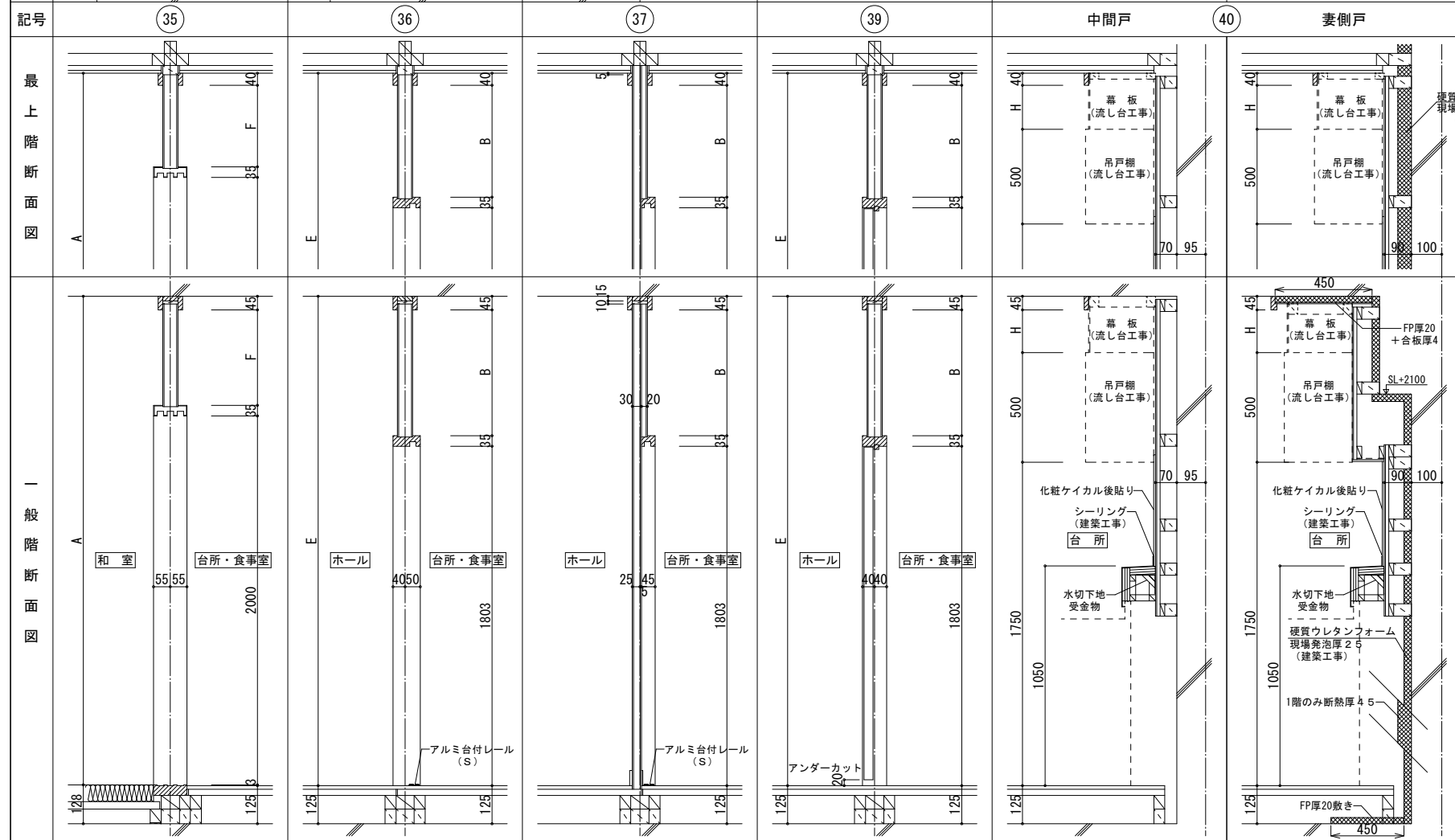
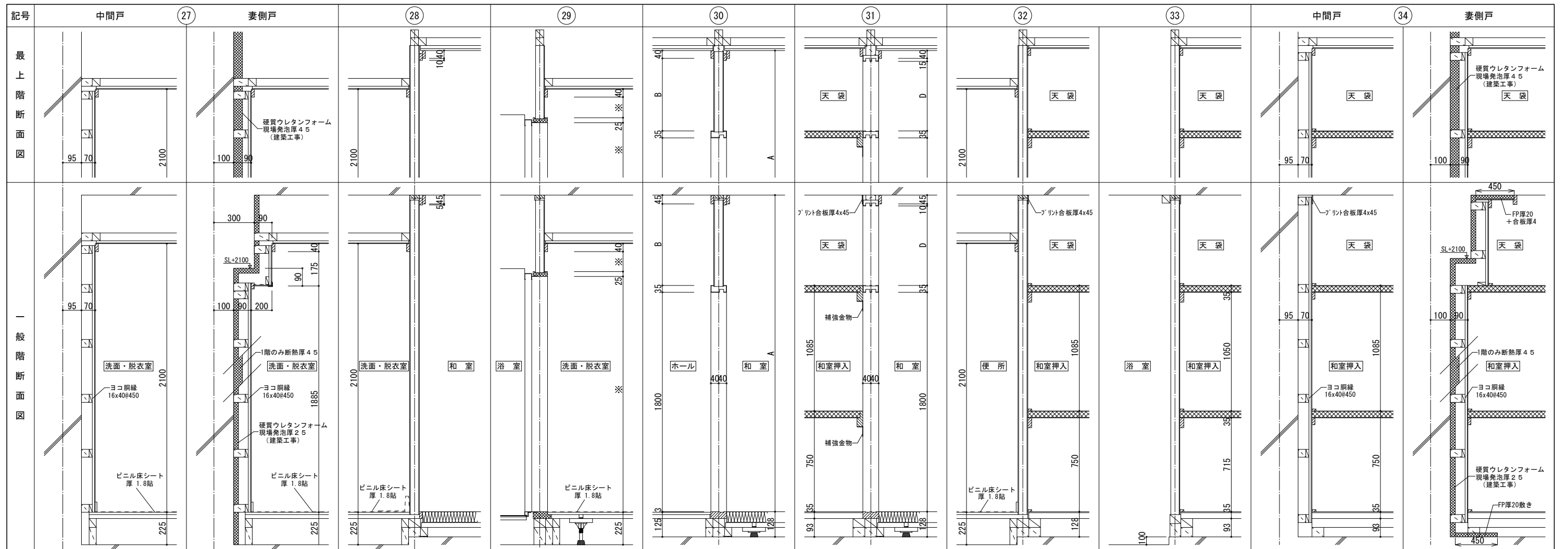


スラブ厚250mm/mに対する高さ寸法

階高	和室天井高 A	B	C	D	洋室天井高 E	F	G	H	
最上階	3150	2422	547	517	532	2425	347	475	135
一般階	2800	2422	542	512	532	2425	342	470	130

一級建築士事務所  
 株式会社 黒野建築設計事務所  
 一級建築士事務所登録 愛知県 11627  
 一級建築士登録 307737号  
 安東 広品  
 設計 H28年3月  
 上郷住宅建築工事 (第2工区)  
 内装断面詳細図 (2)  
 愛知県建設部建築局公営住宅課  
 図面番号 No. A-51  
 縮尺 A1: 1/10 A3: 1/20

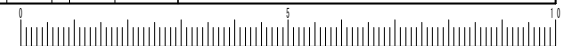


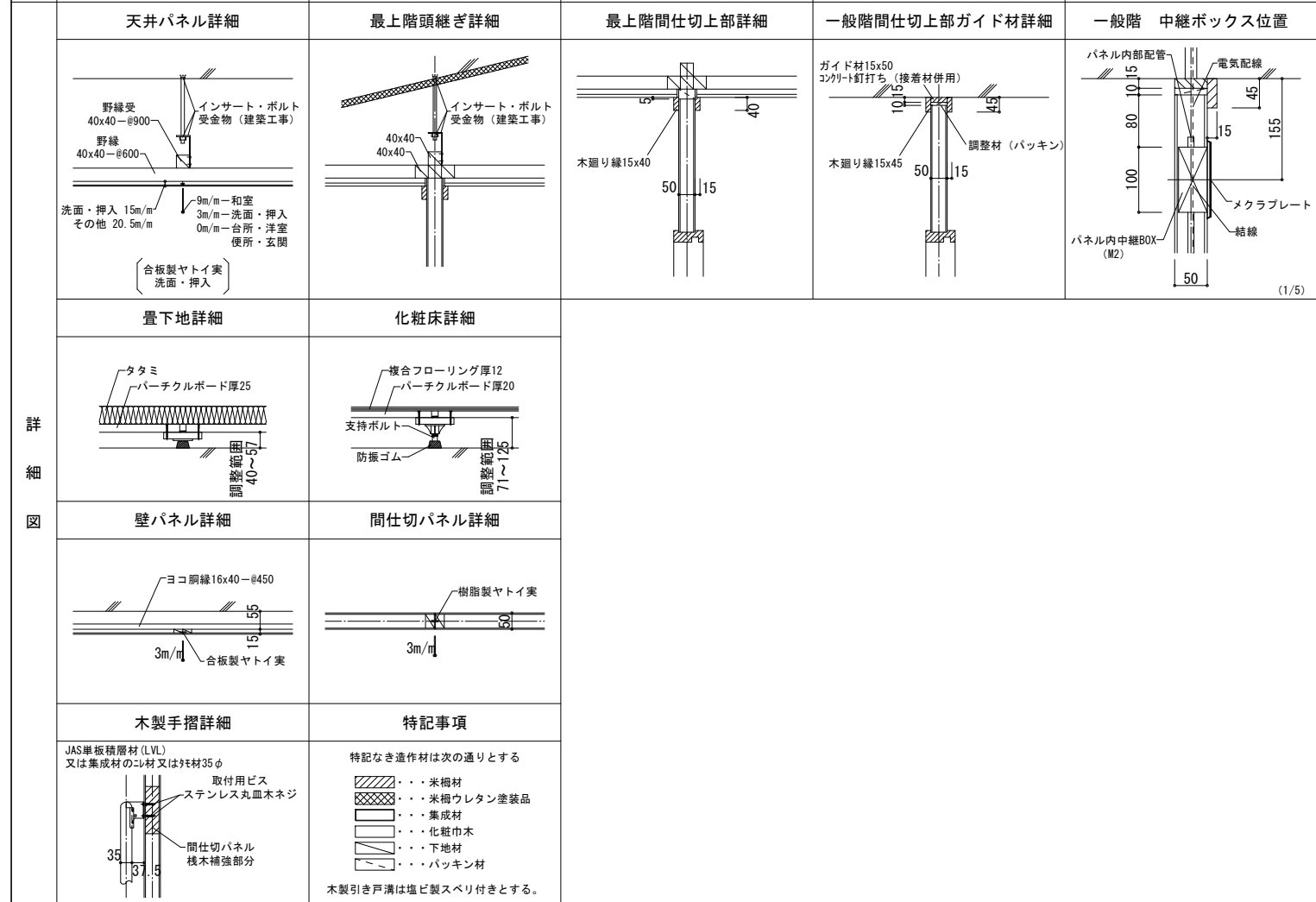
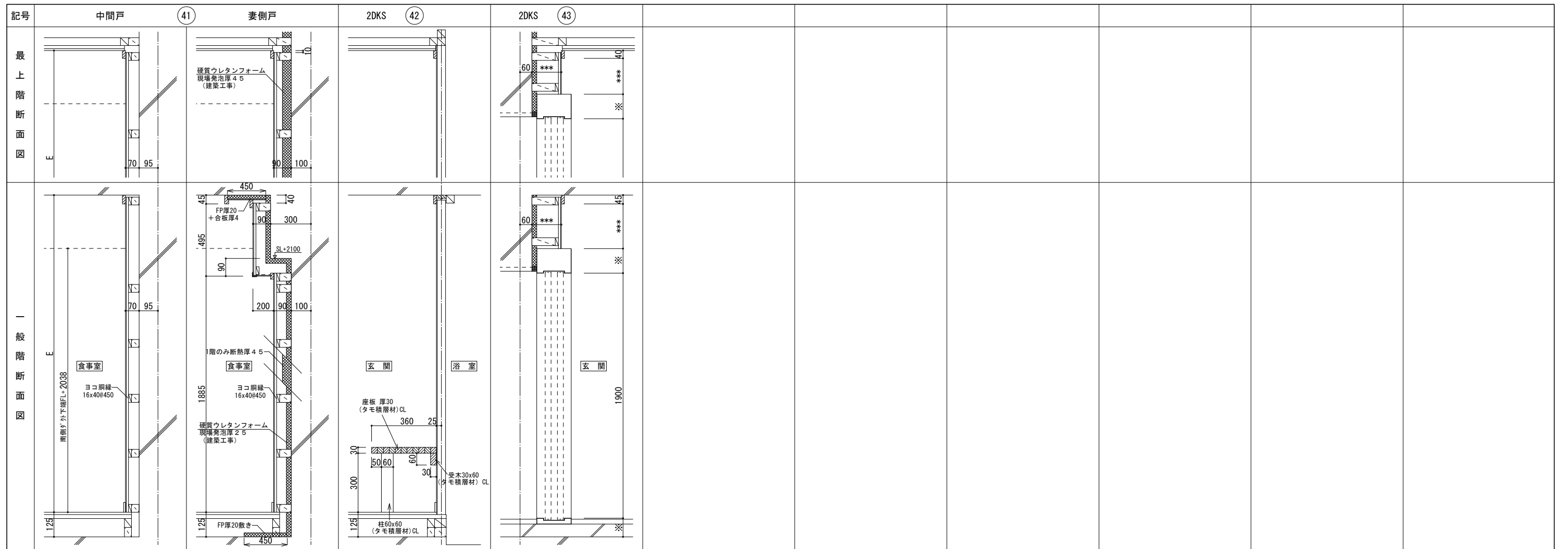


スラブ厚250mm/mに対する高さ寸法

階高	和室天井高	A	B	C	D	洋室天井高	E	F	G	H
最上階	3150	2422	547	517	532	2425	347	475	135	
一般階	2800	2422	542	512	532	2425	342	470	130	

一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 L11627	上郷住宅建築工事(第2工区) 内装断面詳細図(3)	図面番号 No. A-52 縮尺 A1: 1/10 A3: 1/20
一級建築士登録 307737号 安東 広品	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課

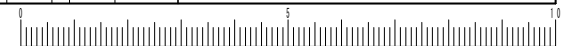




スラブ厚250mm/mに対する高さ寸法

階高	和室天井高	A	B	C	D	洋室天井高	E	F	G	H
最上階	3150	2422	547	517	532	2425	347	475	135	
一般階	2800	2422	542	512	532	2425	342	470	130	

一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 L11627	上郷住宅建築工事 (第2工区) 内装断面詳細図 (4)	図面番号 No. A-53 縮尺 A1: 1/10 A3: 1/20
一級建築士登録 307737号 安東 広品	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課









基本パネル標準図

名称	押入・物入 (床パネル・可動棚パネル)	押入・物入棚パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切小壁パネル	天井パネル (合板)	天井パネル (断熱入り)	天井パネル (石膏ボード)
厚さ	35	35	15・46・50	15・46・50	15	20+4	20.5
仕様	中棧はピッチ225mm以内とする	ペーパーハニカムコア 中棧はピッチ225mm以内とする	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ600mm以内とする
基本棧組図							

分類	タオル掛け・紙巻き器補強	L型手摺補強	洗面化粧台・キャビネット補強	棚受け桧木補強	押入棚受け補強	縦I型手摺補強	将来対応手摺補強	吊り戸棚・水切下地補強	耐震付鴨居補強	PB入りパネル	炭化防止パネル	炭化防止パネル	クーラー補強
パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	間仕切パネル	壁パネル	間仕切パネル	壁パネル
基本補強図													

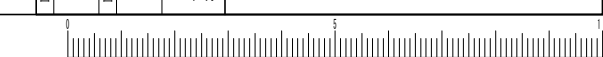
分類	差圧ダンパー補強 分電盤・ガスコック補強	スイッチ・コンセント補強 クーラースリーブ補強	換気スリーブ補強	電気BOX内蔵パネル	点検口付パネル	点検口付パネル	乾式二重床
パネル	壁パネル	壁パネル	壁パネル	間仕切パネル	天井パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル
基本補強図							

分類	アルミコーナー材	間仕切パネル用い実	タオル掛け	押入補強金物	水切下地受金物	アルミ台付レール (S)	への字アングル
付属部品細図							
付属部品細図							

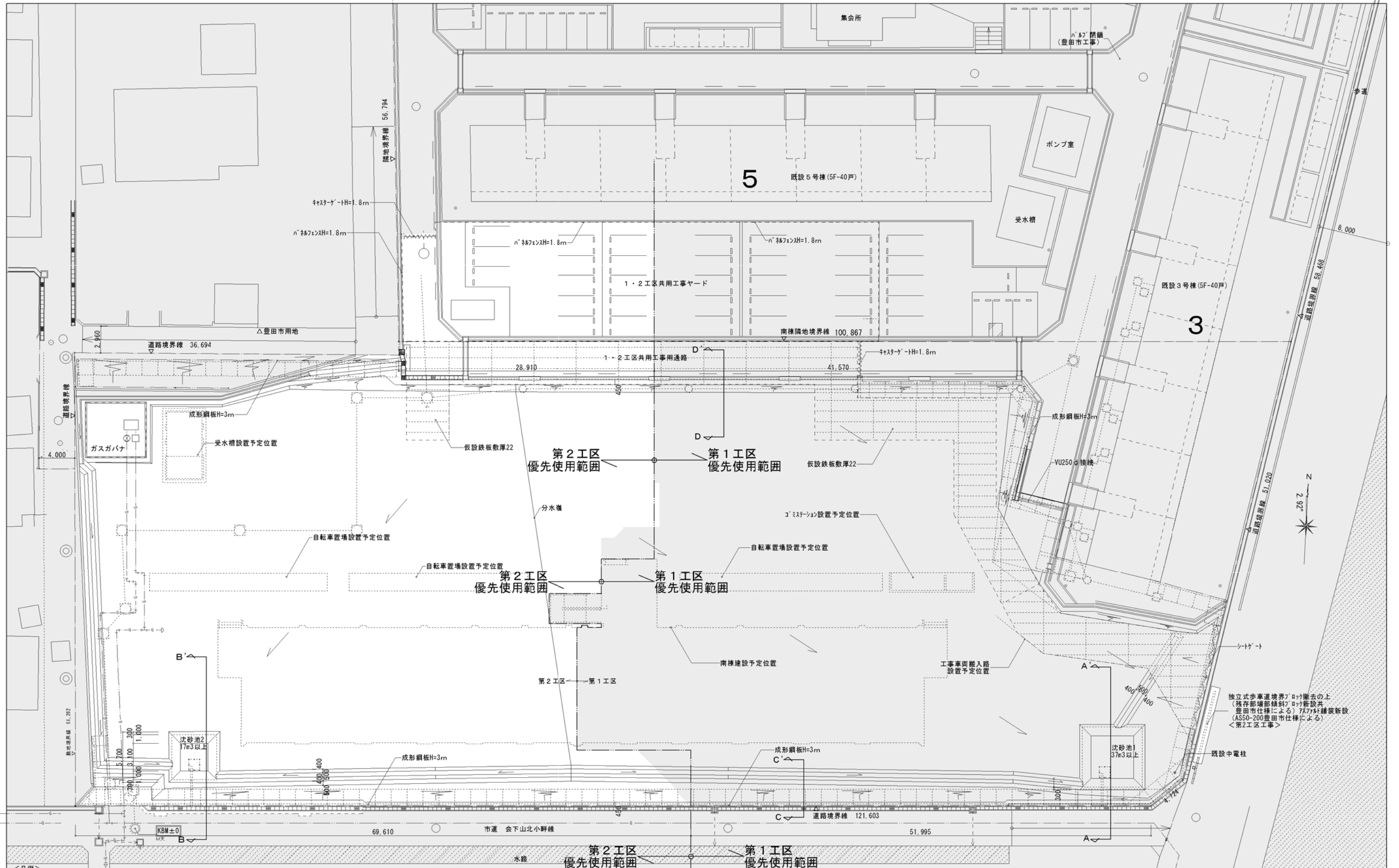
床・棚・壁・間仕切・天井パネルはF☆☆☆☆  
住宅部品表示ガイドラインに基づく「内装パネルのホルムアルデヒド発散区分表示」を示す。

その他  
1. 下地補強については、監督員と協議の上必要箇所へ施すこととする。  
2. 壁目地と天井目地は意匠性を考慮し出来る限り合わせる。  
3. 複合フローリング・合板はJASによる防虫処理合板認定品とする。

一般建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 L11627	上郷住宅建築工事 (第2工区)	図面番号 No. A-57
一級建築士登録 307737号 安東 広品	基本パネル標準図	縮尺 A1: 1/40 A3: 1/80
校 図	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課







- <凡例>**
1. 破線は、仮囲い 成形鋼板 (H=3.0m) を示す。
  2. 点線は、仮囲い 仮設鉄板 (H=1.8m) を示す。
  3. 点線は、シート (W=12.0m, H=4.5m) を示す。
  4. 点線は、仮設シートの設置予定位置を示す。
  5. 点線は、仮設敷き鉄板厚22を示す。
  6. 点線は、今回工事範囲外を示す。

- <註記>**
1. 造成後地盤面は不陸が生じないよう平坦に施工し、水溜りを生じさせず、且つ、沈砂池まで円滑に排水されるよう施工すること。
  2. 既設汚水樹及び汚水配管のメインルートは養生の上積層とする。造成工事期間中に破損させぬよう、入念に養生したうえで施工にあたること。万が一、破損した場合は、監督職員と協議の上、速やかに現形復旧すること。
  3. 工事車両出入り口は、鉄板敷を行い道路側溝を破損せぬよう留意すること。
  4. 沈砂池、兼掘り側溝仕様は部分詳細図による。

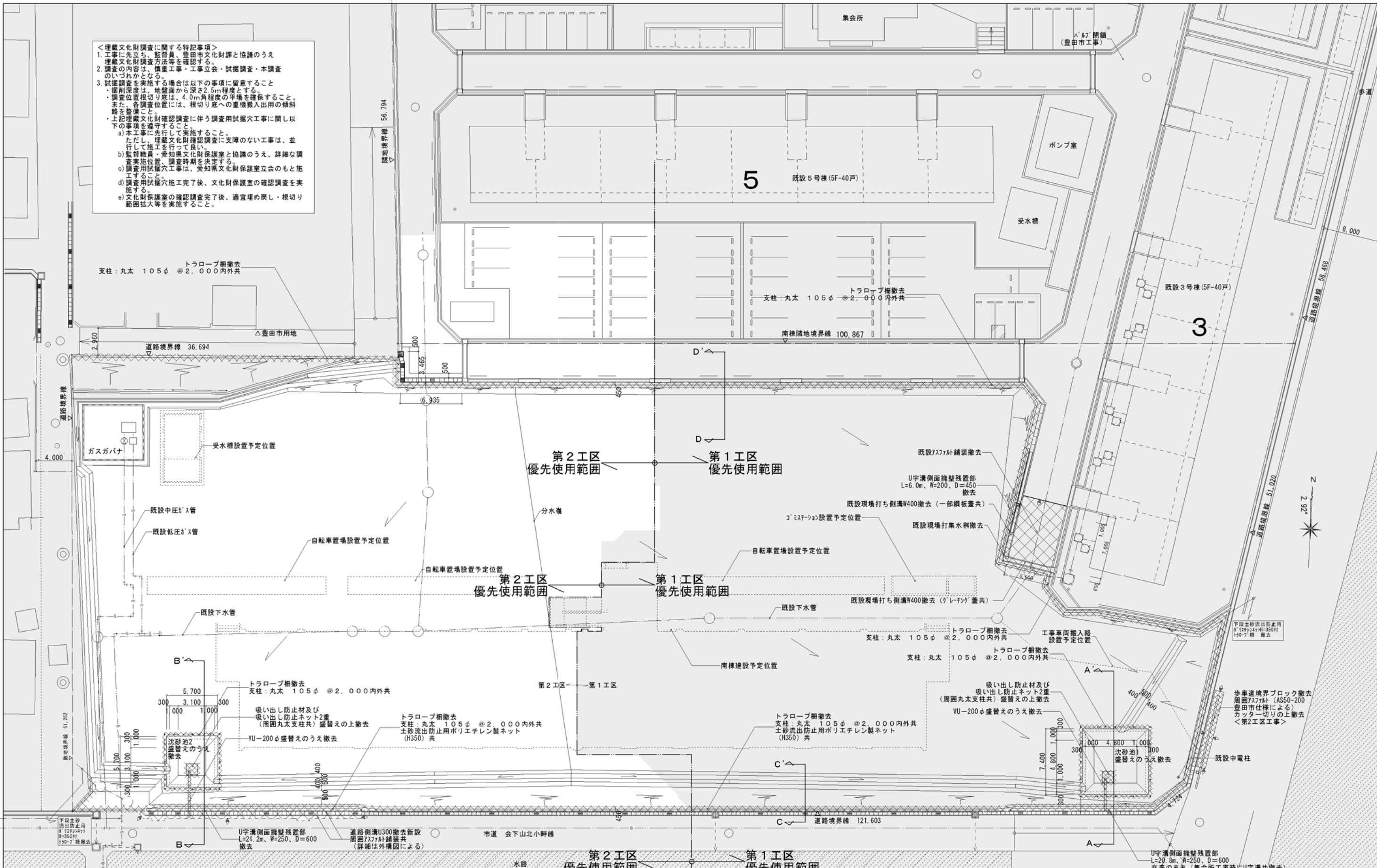
5. ガス管上部は、東邦ガス指示による養生を行うこと。
6. ガス管理施設には、位置・深さを示す仮設理設表示を行うこと。

- <特記事項>**
- ・仮囲い、敷き鉄板の施行区分点は、本図で示す各工区優先使用範囲区分点と同一とする。
  - ・今回工事の区分けは、1工区は本体建物及び駐輪場3のみ、2工区は本体建物及び1工区担当建物以外の諸建物及び外構工事一式とする。
  - ・工事ヤード内の責任分界点は、原則本図で示す工事境界線とするが、施工に先立ち、各工区の施工者間にて入念に施工体制、責任分界点を協議し、施工中支障がないように務めること。
  - ・工事ヤード内には常に整理整頓し、資材等の混入が生じぬよう仮設計画を策定すること。
  - ・工事工程上、お互いの工事ヤードを使用する必要がある場合は、事前に相互に協議し、施工に支障を来さぬよう留意すること。

一般建築士事務所 <b>黒野建築設計事務所</b> 愛知県豊田市 一般建築士登録 307737号 安永 成広		上郷住宅建築工事 (第2工区) 現況配置図兼仮設設計図面 図面番号 No. A-58
概算 概算 設計 H28年3月	概尺 A1: 1/200 A3: 1/400	愛知県建設部建築局公営住宅課



<埋蔵文化財調査に関する特記事項>  
 1. 工事に先立ち、監督員、豊田市文化財課と協議のうえ埋蔵文化財調査方法等を確認する。  
 2. 調査の内容は、慎重工事・工事立会・試掘調査・本調査のいずれかとなる。  
 3. 試掘調査を実施する場合は以下の事項に留意すること。  
 ・掘削深度は、地盤面から深さ2.5m程度とする。  
 ・調査位置根切り底は、4.0m角程度の平場を確保すること。  
 ・また、各調査位置には、根切り底への重機搬入出用の傾斜路を確保すること。  
 ・上記埋蔵文化財確認調査に伴う調査用試掘穴工事に關し以下の事項を遵守すること。  
 a) 本工事に先行して実施すること。  
 ただし、埋蔵文化財確認調査に支障のない工事は、並行して施工を行うこと。  
 b) 監督職員・愛知県文化財保護室と協議のうえ、詳細な調査実施位置、調査時期を決定する。  
 c) 調査用試掘穴工事は、愛知県文化財保護室立会のもと施工すること。  
 d) 調査用試掘穴施工完了後、文化財保護室の確認調査を実施する。  
 e) 文化財保護室の確認調査完了後、適宜埋戻し・根切り範囲拡大等を実施すること。

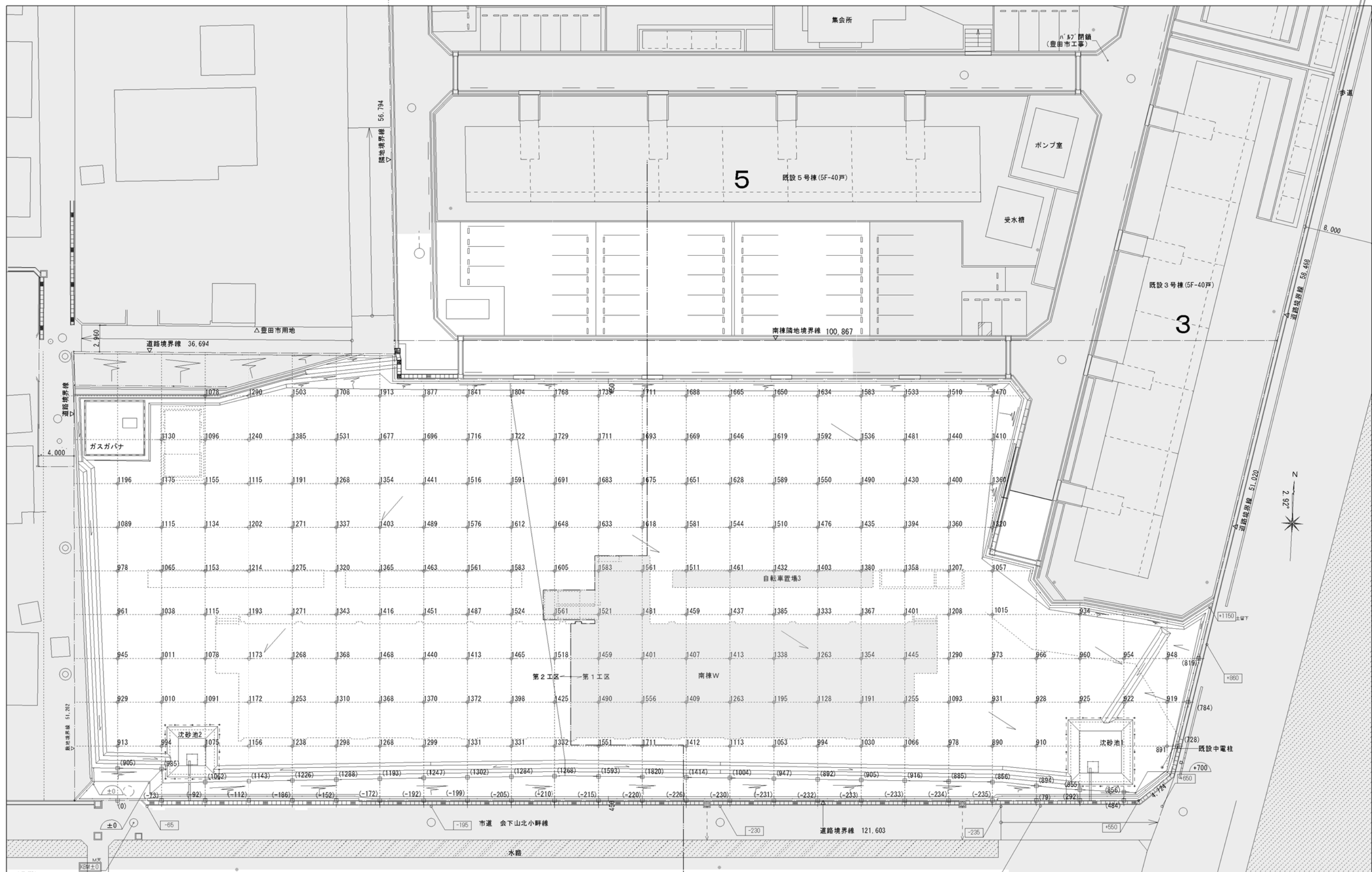


- <凡例>  
 1. [Hatched Box] : 撤去範囲を示す。  
 2. [Solid Box] : 今回工事範囲外を示す。  
 3. [Arrow] : カッター入れを示す。

- <註記>  
 1. 既設仮設材等の撤去に際し、既設ガス管、汚水樹及び汚水配管は破壊させぬよう、充分に注意すること。万が一、破壊した場合は、監督職員と協議の上、速やかに現形復旧すること。  
 2. ガス管上部(中圧、低圧共)は、東邦ガス指示による養生を行うこと。  
 3. 沈砂槽施設(沈砂池、吸出し防止材、放流用VU管等)は、工事着手前に明治用水土地改良区失作川沿岸水質保全対策協議会と十分協議のうえ、適切な時期・位置に盛替等を行うこと。上記沈砂槽施設は、工事完了時には撤去し、配置図で示される小堤を構築すること。  
 4. 工事中の沈砂池は、各工区毎に設けること。  
 5. 工事完了時の小堤からの排水用VUは、小堤築造を含め、第2工区工事とする。

一般建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一般建築士事務所登録 愛知県 L1627		上郷住宅建築工事(第2工区) 現況配置図撤去図		図面番号 No. A-59
一般建築士登録 307737号 安楽 広品		縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400		
検 査 図	製 図	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	





- <凡例>**
- ○ ○ ○ : 符号内数値「○○○○」は、KBM±0からの現況地盤高さ（測量値）を示す。
  - ● ● ● : 符号内数値「●●●●」は、KBM±0からの現況地盤高さ（推定値）を示す。
  - △ △ △ △ : 符号内数値「△△△△」は、KBM±0からの取壊し工事設計時計画地盤高さを示す。
  - □ □ □ : 符号内数値「□□□□」は、KBM±0からの敷地外部分現況地盤高さを示す。
  - □ □ □ : 今回工事範囲外を示す。

**<特記事項>**

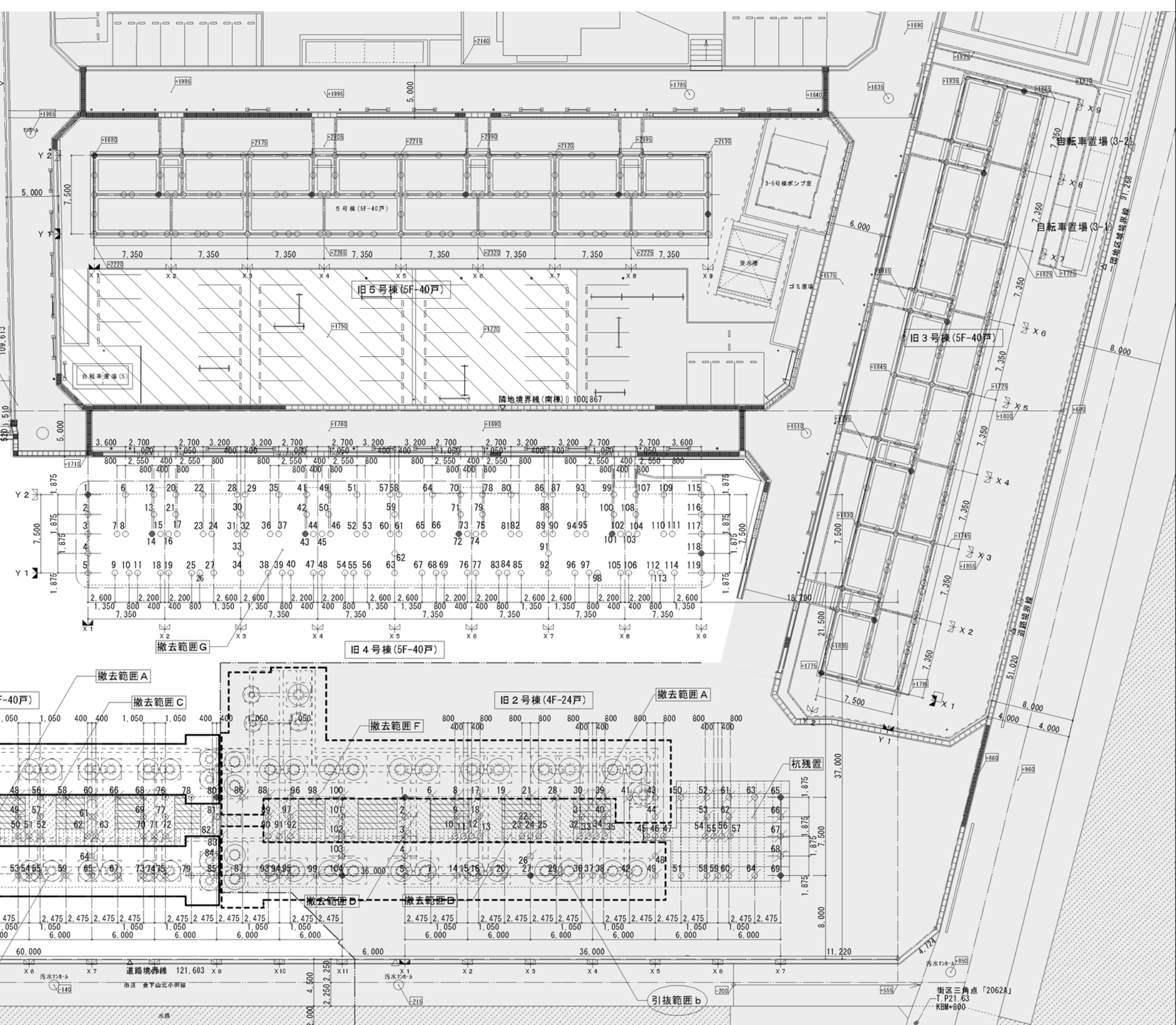
- 取壊し工事後の敷外し地盤からの土工事の区分は、  
第1工区：南棟W本体工事及び自転車置場3に係る根切り、埋戻し、盛土  
第2工区：南棟E及び前項記載建物以外に係る根切り、埋戻し、盛土に加え、当該敷地内の残土処分一式
- 土工事の区分、根切し利用の工区間の調整は、施工者間で入念に行い、施工に支障なきよう留意すること。

一般建築士事務所 <b>黒野建築設計事務所</b> 愛知県豊田市 一般建築士登録番号 愛知県 L1627		上郷住宅建築工事（第2工区） <b>現況地盤高実測図</b>		図面番号 No. A-60
一般建築士登録 307737号 安永 成広	設計 H28年3月	縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	愛知県建設部建築局公営住宅課	





既設杭リスト		
住棟	杭種	本数
1号棟	○ PHC杭 300φ 13m	22本
	○ PHC杭 300φ 12m	5本
	○ PHC杭 300φ 11m	75本
		計104本
2号棟	● PHC杭 300φ 18m	2本
	○ PHC杭 300φ 13m	65本
		計67本
3号棟	○ PHC杭 300φ 14m	116本
	● PHC杭 300φ 18m	6本
		計122本
4号棟	○ PHC杭 300φ 14m	116本
	● PHC杭 300φ 18m	6本
		計122本
5号棟	○ PHC杭 300φ 14m	116本
	● PHC杭 300φ 18m	6本
		計122本



汚水天 KBM±0  
(T.P20.83m【街区三角点2062Aより計測】)

引抜範囲a  
引抜範囲b

杭残置

撤去範囲E  
撤去範囲A  
撤去範囲C  
撤去範囲F  
撤去範囲B  
撤去範囲D  
撤去範囲G

杭撤去凡例

1. [Hatched Box] : KBM-2760まで撤去範囲Fを示す。  
2. [Hatched Box] : KBM-2560まで撤去範囲Eを示す。  
3. [Hatched Box] : 杭残置範囲を示す。

杭撤去図 S=1/200

4. [Hatched Box] : KBM-750まで撤去範囲Bを示す。  
5. [Hatched Box] : KBM-450まで撤去範囲Aを示す。  
6. [Hatched Box] : KBM-2050まで撤去範囲Dを示す。

7. [Hatched Box] : KBM-500まで撤去範囲Gを示す。  
8. [Hatched Box] : KBM-1750まで撤去範囲Cを示す。  
9. [Hatched Box] : 柱状体改良底部 既設杭引抜範囲aを示す。(改良底KBM-6300)

本工事フーチング外形  
本工事杭本体

10. [Hatched Box] : 本工事杭、基礎工事範囲に係る 既設杭引抜範囲bを示す。  
杭工事影響範囲 (外形500mm)

※特記事項

- 杭頭の高さは、KBM±0からの距離を示す。(単位 mm)
- 引抜いた杭孔の処置：セメントミルクの注入
- 配合1m3あたり セメント：185kg/m3  
ペントナイト：25kg/m3  
水：188kg×5倍程度

第2工区 第1工区

上郷住宅建築工事(第2工区)

既設杭リスト、杭撤去図

No. A-61

設計 H28年3月

愛知県建設部建築局公営住宅課

図面番号 No. A-61

縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400



1. 鉄筋の表示記号

Table with 4 columns: 鉄筋径, 異形鉄筋, 表示記号, 鉄筋径, 異形鉄筋, 表示記号. Rows include D10, D13, D16, D19, D22 and various shapes like x, o, ●, ⊗.

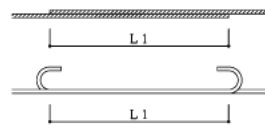
(注) 本図集において、鉄筋の表示方式は、上記の形式とする

2. 鉄筋の表示方式

Table with 2 columns: 表示方式, 表示例および内容. Rows show examples for n-Dm, Dm @L, Dm @L(D), Dm Dm' @L, and Dm @L千鳥.

(注) 本図集において、鉄筋の表示方式は、上記の形式とする

・L1(重ね継手)の長さは下図に示す値とする。



3. 鉄筋の定着および継手長さ

Table with 7 columns: コンクリート設計基準強度Fc, 鉄筋の種類, フックの有無, L1, L2, L3 (小梁, 床板), and 27N/mm² ≤ Fc ≤ 36N/mm². Rows list reinforcement types like SD295A, SD295B, SD345, SD390.

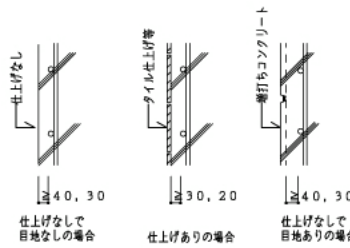
継手の定着
○ 重ね継手と定着の長さは3の表を基準とする。ただし径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、径の大きい方の公称直径による。
また、図示するように未端のフックは重ね長さに入らない。

◇ L1は継手並びに下記及び以下以外の定着長さを示す。
◇ L2は異形鉄筋で割断破壊のおそれのない箇所での定着長さを示す。
◇ L3は小梁及び床板の下端部の定着長さを示す。但し、基礎耐圧板これを受ける小梁などは除く。

仕
様
附
記
事
項
名称 共通事項(その1)
縮尺 R-1-1

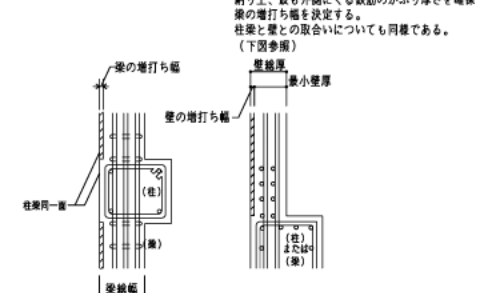
1. 鉄筋のかぶりの厚さの最小値 (mm)

Table with 3 columns: 構造部分の種類, 仕上げあり/なし, 厚さ. Rows include 土に接しない部分 (柱, 梁, 耐力壁, パラペット, 手摺), 土に接する部分 (床板, 梁, 床板, 壁, 基礎, 階梁, 耐圧床板), and 屋梁など高熱を受ける部分.



(注) 1. 目地がある場合のかぶり厚さは、目地底からとする。
2. 仕上げは、構造用軽量コンクリートの場合も含む。
3. 仕上げありとは、モルタル塗り・タイル張り等の仕上げのあるものとし、仕上げ材料等により鉄筋の耐久上有効でない仕上げのものを除く。(右図のかぶり厚さを参照)
4. 床板、梁、基礎および壁等で直接土に接する部分のかぶり厚さには、補コンクリートの厚さを含まない。
5. 基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。

2. 梁壁の増打ち幅



1. 鉄筋の折曲げ規準

Table with 4 columns: 折曲角度, 折曲げ図, 全てのコンクリート (SD295A, SD295B, SD345, SD390), 使用箇所. Rows show bending angles of 180°, 135°, 90°, and 90°/135°.

(注) Dは、曲げ内の半径

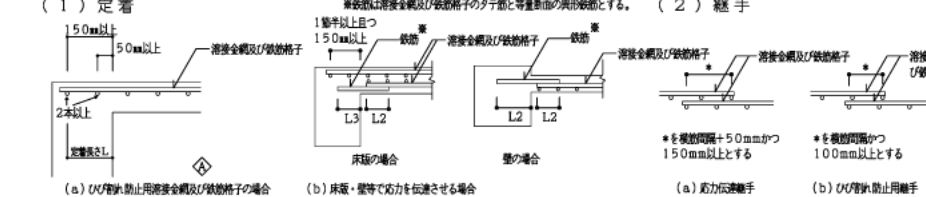
Table with 4 columns: 折曲角度, 折曲げ図, 全てのコンクリート (SD295A, SD295B, SD345, SD390), 使用箇所. Rows show bending angles of 90° and 90°以下.

SD390を使用する場合は、( )内を適用する。

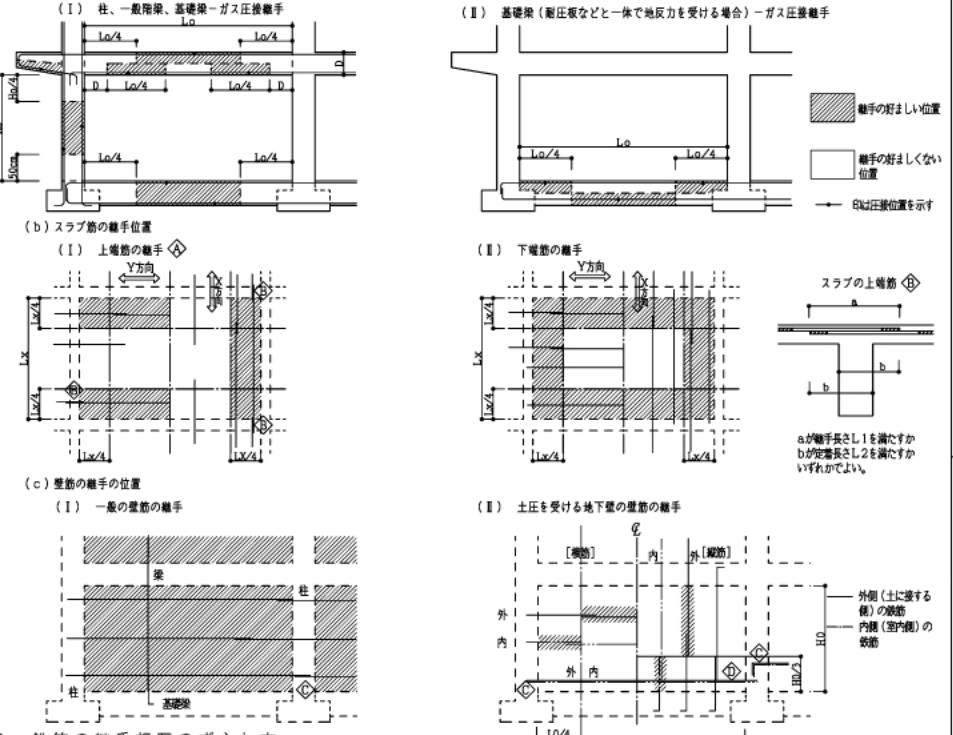
○ フックを必要とする末端部を次に示す。
1) 異形鉄筋では帯筋、あはら筋
2) 衝突に用いる鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
3) 一般用柱、梁(基礎を除く)の出隅部分の重ね継手
◇ ひび割れ防止に用いる溶接金網及び鉄筋格子の定着長さは、支持部材の内縁表面から溶接金網及び鉄筋格子の最外端の露出までの距離とし、その値は横断方向に50mmを加えた長さ以上、かつ150mm以上とする。

仕
様
附
記
事
項
名称 共通事項(その2)
縮尺 R-1-2

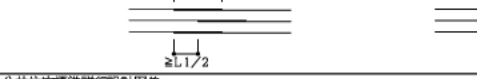
2. 溶接金網及び鉄筋格子の定着と継手



1. 鉄筋の継手位置(ラーメン構造用)



2. 鉄筋の継手相互のずらし方



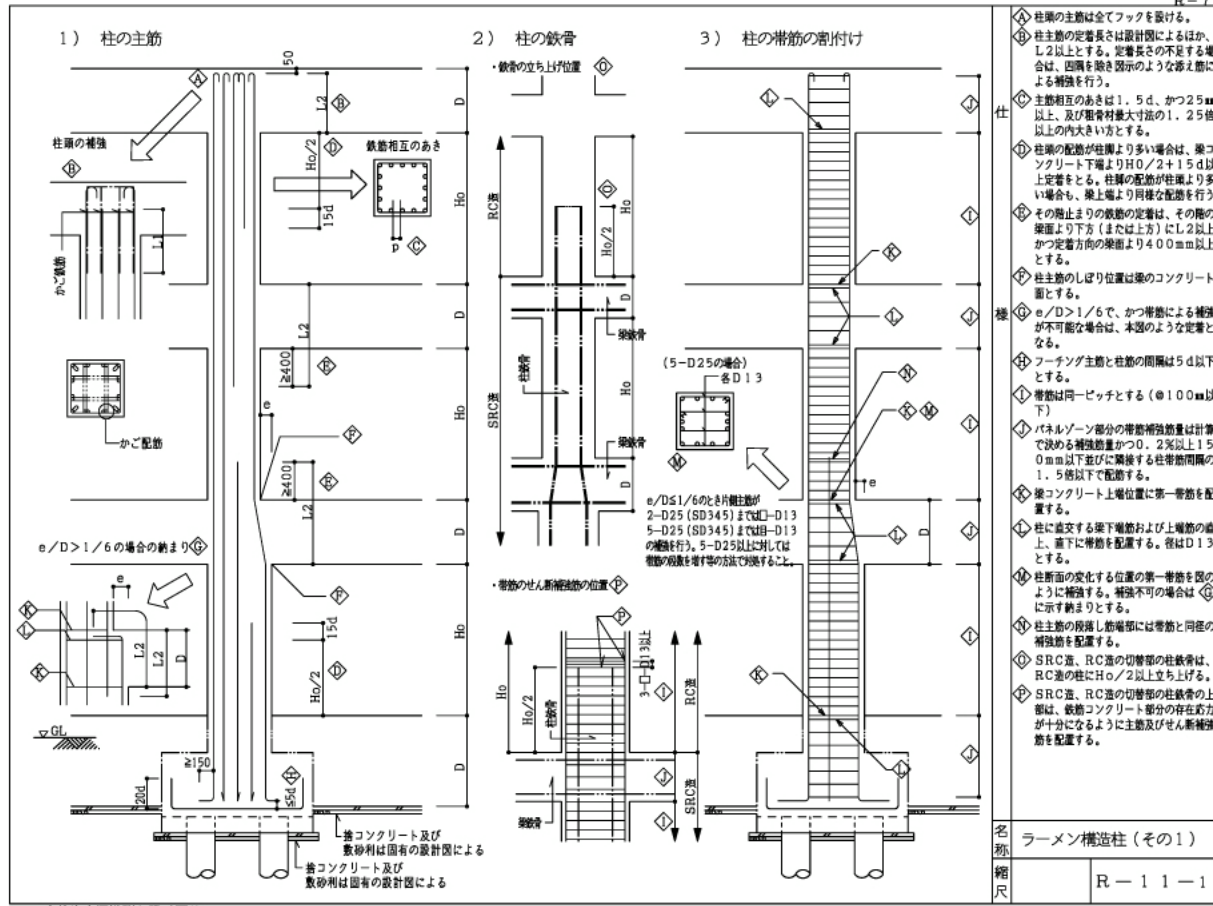
○ 鉄筋の継手は原則として高力の小さいところで、かつ意味はコンクリートに圧縮力が生じている部分に設ける。また継手は一方に集中することなく相互にずらして設けることを原則とする。
○ 図はガス圧継手の場合も原則的には本図に準じるものとする。
◇ ベタ基礎のスラブの場合は本図で上端部・下端部、下端部・上端部として設けることとする。
◇ 梁内にはスラブ筋の継手を設けないことが望ましい。継手を設ける場合は、柱間幅に限りaが継手長さs1を満たすか、bが定着長さs2を満たす場合は設けてよい。
◇ 断面として梁柱の中継手は鉄筋の継手は設けないこと。ただし基礎の場合は1スパン毎に柱に定着する事は差支えない。
◇ 外側鉄筋をH/3以内で継ぐ場合は重ね長さをs1+s2とする。

○ 壁の縦筋及び横筋の外側露出は、縦筋を縦筋の外側に配する。但し、土圧を受ける地下壁は、縦筋を横筋の外側に配する。

仕
様
附
記
事
項
名称 共通事項(その4)
縮尺 R-1-4

Project information including architect (黒野建築設計事務所), client (上郷住宅建築工事(第2工区)), and drawing details (No. S-A).

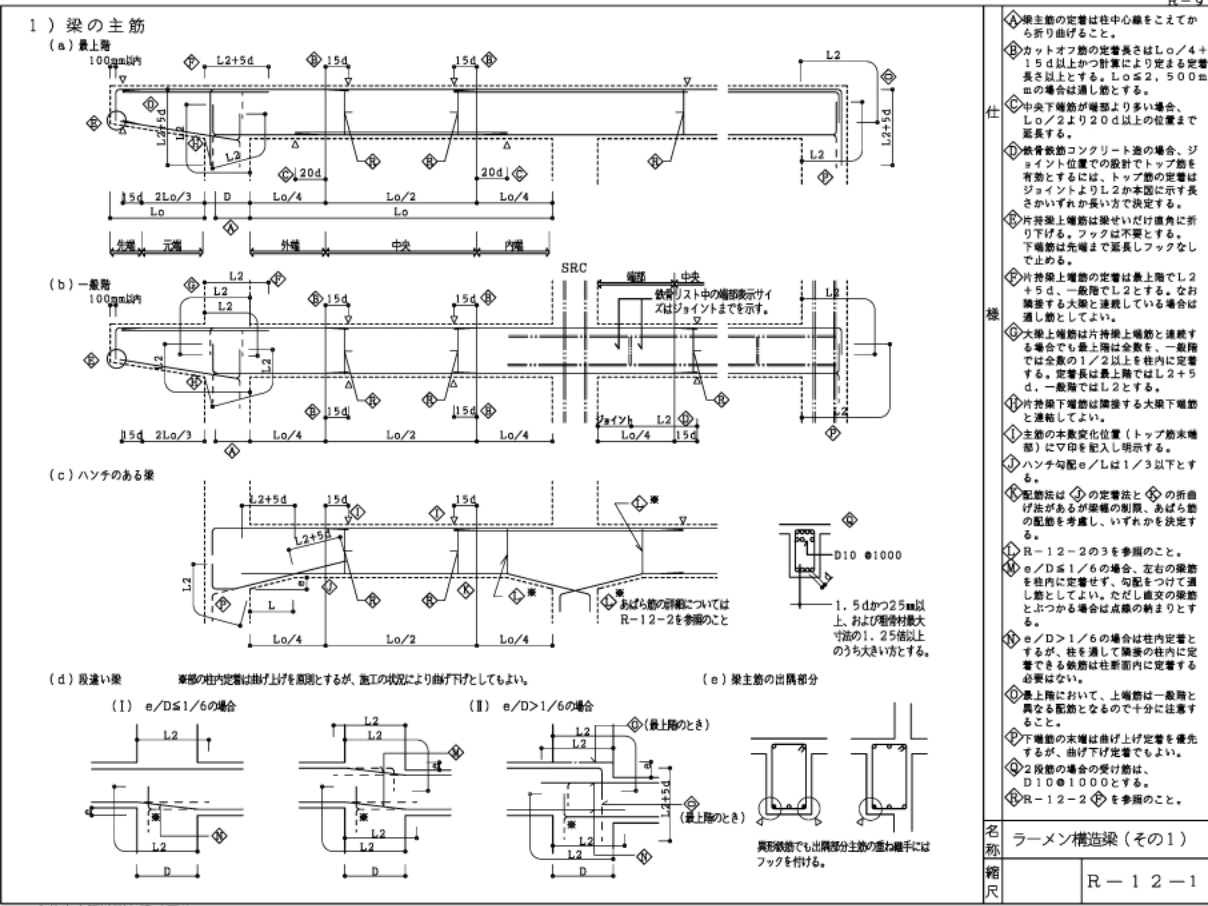




R-7

柱の主筋は全てフックを付ける。  
 柱主筋の定着長さは設計図によるほか、 $L_2$ 以上とする。定着長さの不足する場合は、図例に示すような添え筋による補強を行う。  
 主筋相互のあきは、1.5d、かつ25mm以上、及び鉄骨材最大径の1.25倍以上の内大きい方とする。  
 柱筋の配筋が柱筋より多い場合は、梁コンクリート下層よりH $\times$ 2/15d以上定着せよ。柱筋の配筋が柱筋より多い場合も、梁上層より同様な配筋を行う。  
 その際、梁上層の鉄筋の定着は、その階の梁上層より下方（または上方）に $L_2$ 以上かつ定着方向の梁筋より400mm以上とする。  
 柱主筋のしり位置は梁のコンクリート面とする。  
 e/D $\leq$ 1/6で、かつ鉄骨による補強が不可能な場合は、本図のような定着とする。  
 フーチング主筋と柱筋の間隔は5d以下とする。  
 等筋は同一ピッチとする（ $\phi$ 100mm以下）  
 パネルゾーン部分の等筋補強量は計算で決める補強量かつ、2%以上150mm以下に等筋する等筋間隔の1.5倍以下で配筋する。  
 梁コンクリート上層部に第一等筋を配置する。  
 柱に定着する梁下層筋および上層筋の端上、下層に等筋を配置する。径はD13とする。  
 柱断面の変化する位置第一等筋を図のように補強する。補強不可の場合は $\phi$ に示す納まりとする。  
 柱主筋の終端部には等筋と等筋の補強筋を配置する。  
 SRC造、RC造の切替部の柱鉄骨は、RC造の柱にH $\times$ 2/15d以上定着せよ。  
 SRC造、RC造の切替部の柱鉄骨の上層は、鉄骨コンクリート部分の存在耐力が十分になるように主筋及びせん断補強筋を配置する。

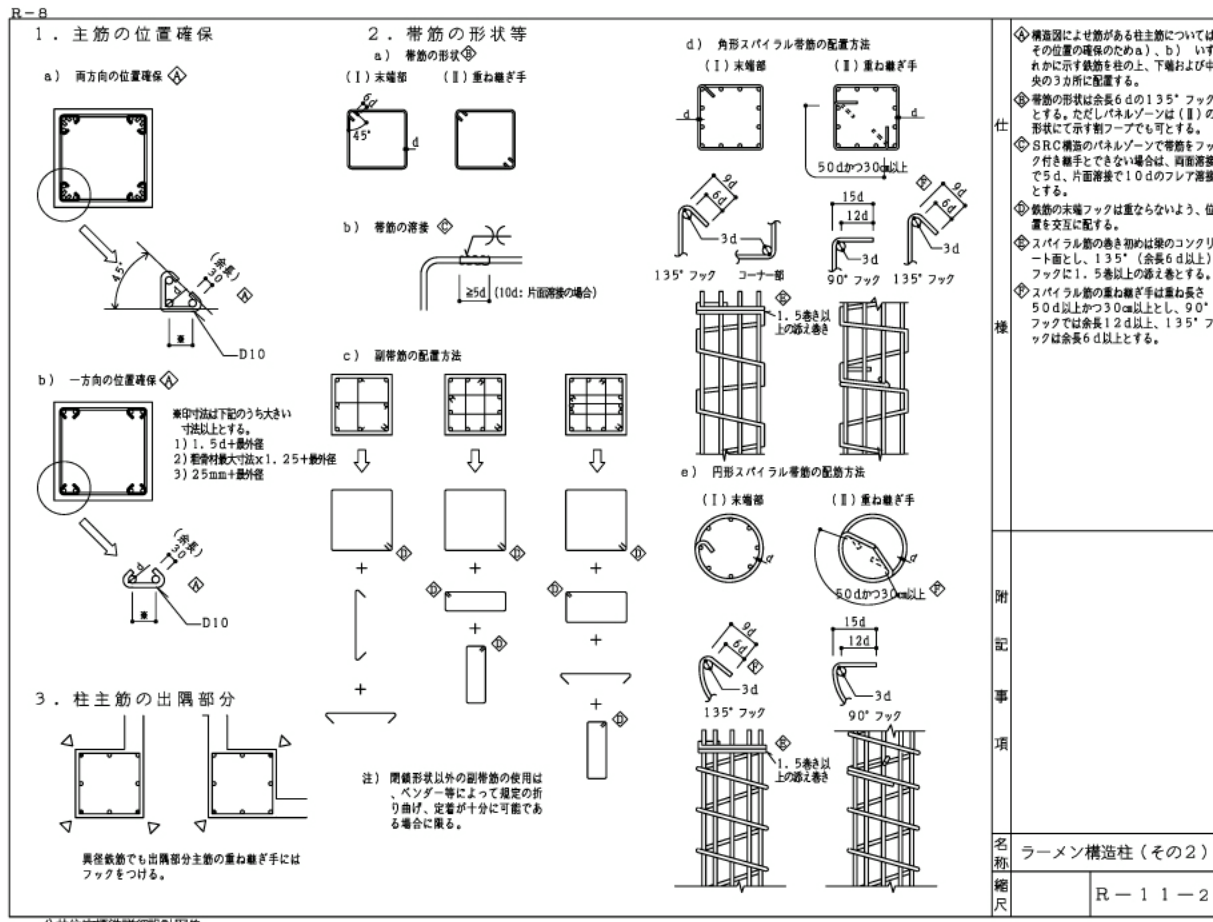
名称: ラーメン構造柱 (その1)  
 縮尺: R-11-1



R-9

梁主筋の定着は柱中心線までをこえてから折り返すこと。  
 カットオフ筋の定着長さは $L_0/4+1.5d$ 以上かつ計算により定まる定着長さ以上とする。L $\leq$ 2,500mmの場合は適し筋とする。  
 中央下層筋が柱筋より多い場合、L $\times$ 2より20d以上の位置まで延長する。  
 鉄骨筋コンクリート造の場合、ジョイント位置での設計でトップ筋を有効にするには、トップ筋の定着はジョイントより $L_2$ か本図に示す長さ whichever is longer 方で決定する。  
 片持梁上層筋は梁せいだけ内角に折り下げる。フックは不要とする。下層筋は先端まで延長しフックなしとする。  
 片持梁上層筋の定着は上層で $L_2+5d$ 、一般層で $L_2$ とする。なお隣接する大梁と連続している場合は適し筋としてよい。  
 大梁上層筋は片持梁上層筋と連続する場合でも上層は全数を、一般層では全数の1/2以上を柱内に定着する。定着長は上層で $L_2+5d$ 、一般層で $L_2$ とする。  
 片持梁下層筋は隣接する大梁下層筋と連続してよい。  
 主筋の本数変化位置（トップ筋末端部）にマ印を記入し明示する。  
 ハンチ勾配 $\alpha$ は1/3以下とする。  
 配筋法は $\phi$ の定着法と $\psi$ の折り返し法があるが梁筋の制約、あばら筋の配筋を考慮し、いずれかを決定する。  
 R-12-2の3を参照のこと。  
 e/D $\leq$ 1/6の場合、左右の梁筋を柱内に定着せず、勾配をつけて適し筋としてよい。ただし直交の梁筋とぶつかる場合は点線の納まりとする。  
 e/D $>$ 1/6の場合は柱内定着とするが、柱を通して隣梁の柱内に定着できる鉄筋は柱断面内に定着する必要がある。  
 上層において、上層筋は一般層と異なる配筋となるので十分に注意すること。  
 下層筋の末端は曲げ上げ定着を優先するが、曲げ下げ定着でもよい。  
 2段階の場合の出隅筋は、D10 $\phi$ 100とする。  
 R-12-2を参照のこと。

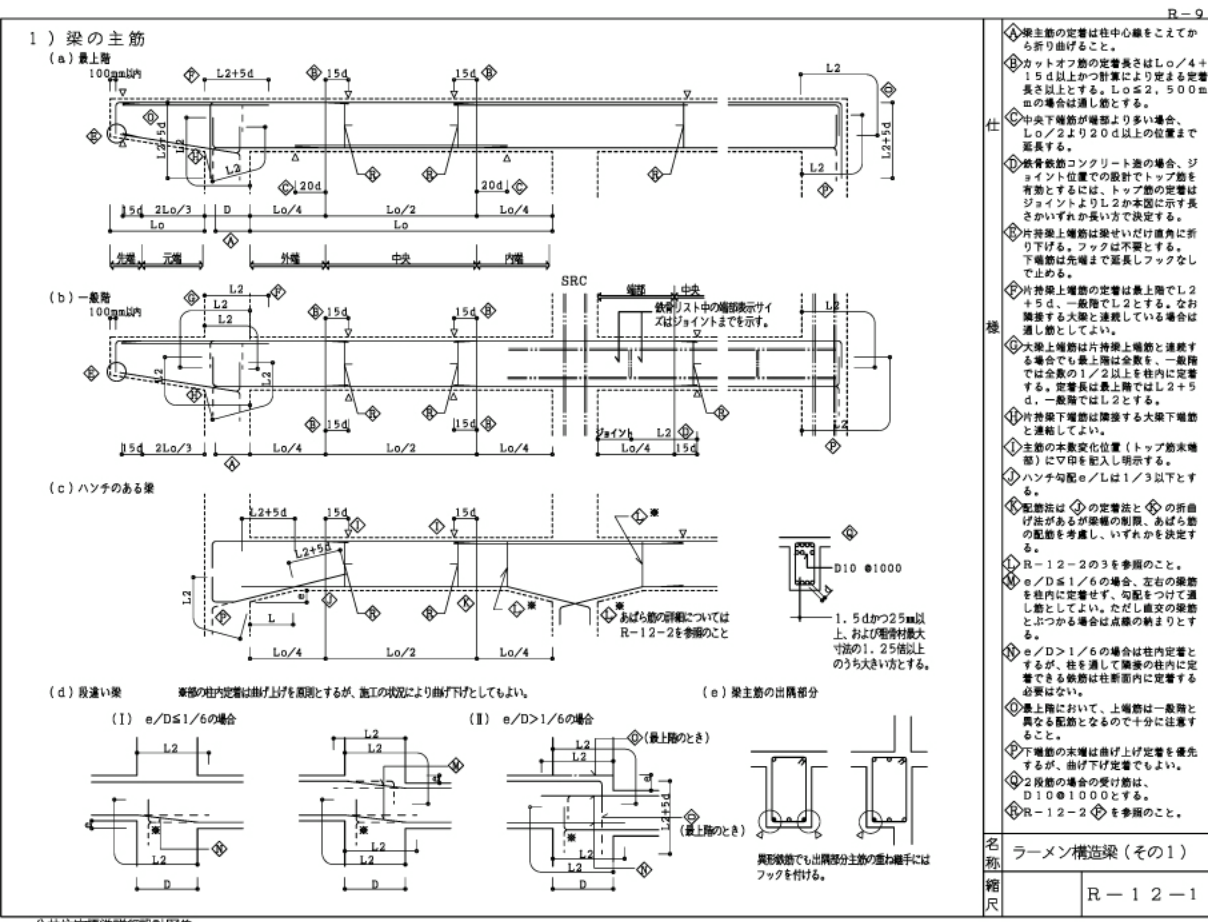
名称: ラーメン構造梁 (その1)  
 縮尺: R-12-1



R-8

構造図によせる柱主筋についてはその位置の確保のためa), b) いずれかに示す鉄筋を柱の上、下層および中央の3か所に配置する。  
 帯筋の形状は余長6dの135°フックとする。ただしパネルゾーンでは(II)の形状に示す折り返しを付する。  
 SRC造の帯筋のパネルゾーンで等筋をフック付とできない場合は、両面溶接で5d、片面溶接で10dのフレア溶接とする。  
 帯筋の末端フックは重ならないよう、位置を交互に配する。  
 スパイラル筋の巻き始めは梁のコンクリート面とし、135°（余長6d以上）フックに1.5巻以上の添え筋とする。  
 スパイラル筋の重ね巻き手は重ね長さ50d以上かつ30cm以上とし、90°フックでは余長12d以上、135°フックでは余長6d以上とする。

名称: ラーメン構造柱 (その2)  
 縮尺: R-11-2



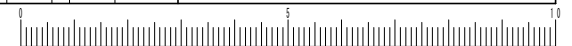
R-9

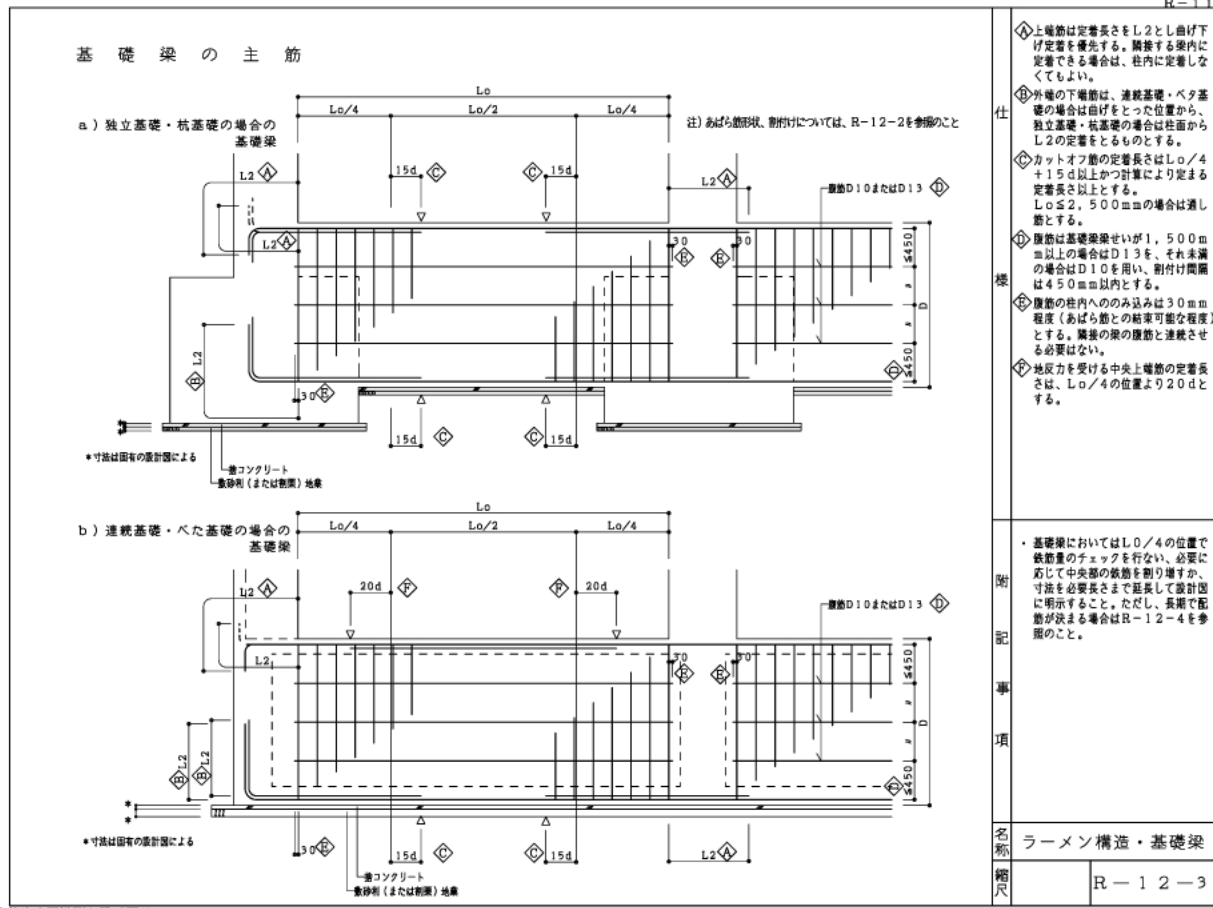
梁主筋の定着は柱中心線までをこえてから折り返すこと。  
 カットオフ筋の定着長さは $L_0/4+1.5d$ 以上かつ計算により定まる定着長さ以上とする。L $\leq$ 2,500mmの場合は適し筋とする。  
 中央下層筋が柱筋より多い場合、L $\times$ 2より20d以上の位置まで延長する。  
 鉄骨筋コンクリート造の場合、ジョイント位置での設計でトップ筋を有効にするには、トップ筋の定着はジョイントより $L_2$ か本図に示す長さ whichever is longer 方で決定する。  
 片持梁上層筋は梁せいだけ内角に折り下げる。フックは不要とする。下層筋は先端まで延長しフックなしとする。  
 片持梁上層筋の定着は上層で $L_2+5d$ 、一般層で $L_2$ とする。なお隣接する大梁と連続している場合は適し筋としてよい。  
 大梁上層筋は片持梁上層筋と連続する場合でも上層は全数を、一般層では全数の1/2以上を柱内に定着する。定着長は上層で $L_2+5d$ 、一般層で $L_2$ とする。  
 片持梁下層筋は隣接する大梁下層筋と連続してよい。  
 主筋の本数変化位置（トップ筋末端部）にマ印を記入し明示する。  
 ハンチ勾配 $\alpha$ は1/3以下とする。  
 配筋法は $\phi$ の定着法と $\psi$ の折り返し法があるが梁筋の制約、あばら筋の配筋を考慮し、いずれかを決定する。  
 R-12-2の3を参照のこと。  
 e/D $\leq$ 1/6の場合、左右の梁筋を柱内に定着せず、勾配をつけて適し筋としてよい。ただし直交の梁筋とぶつかる場合は点線の納まりとする。  
 e/D $>$ 1/6の場合は柱内定着とするが、柱を通して隣梁の柱内に定着できる鉄筋は柱断面内に定着する必要がある。  
 上層において、上層筋は一般層と異なる配筋となるので十分に注意すること。  
 下層筋の末端は曲げ上げ定着を優先するが、曲げ下げ定着でもよい。  
 2段階の場合の出隅筋は、D10 $\phi$ 100とする。  
 R-12-2を参照のこと。

名称: ラーメン構造梁 (その1)  
 縮尺: R-12-1

一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 登録番号 L11627	上郷住宅建築工事 (第2工区)	図面番号
一級建築士登録 307737号 安楽 広品	鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(2)	縮尺 総尺 A3:二
No. S-B	愛知県建設部建築局公営住宅課	

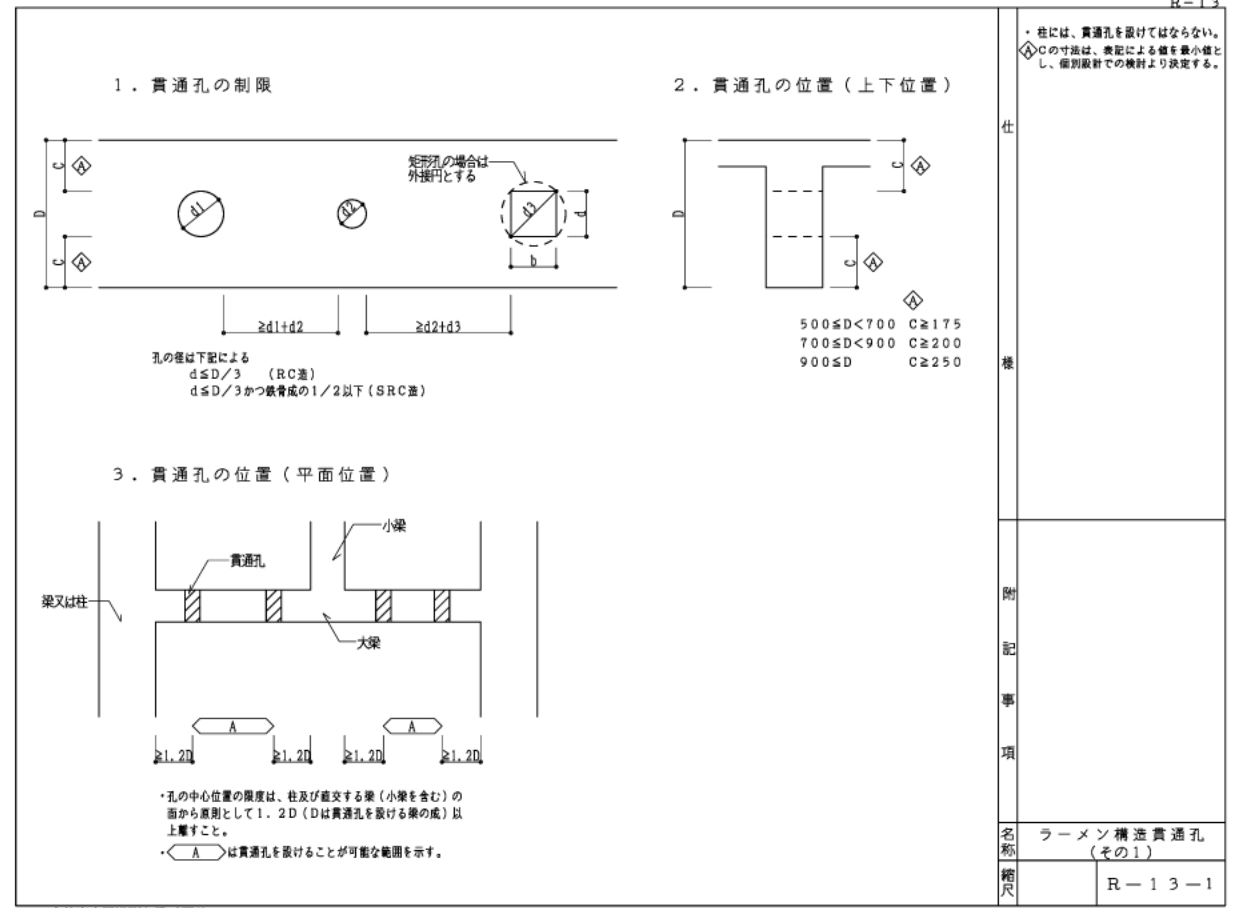
一級建築士事務所 匠建設、愛知県知事登録 (い-24) 第11595号  
 一級建築士 92468号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人





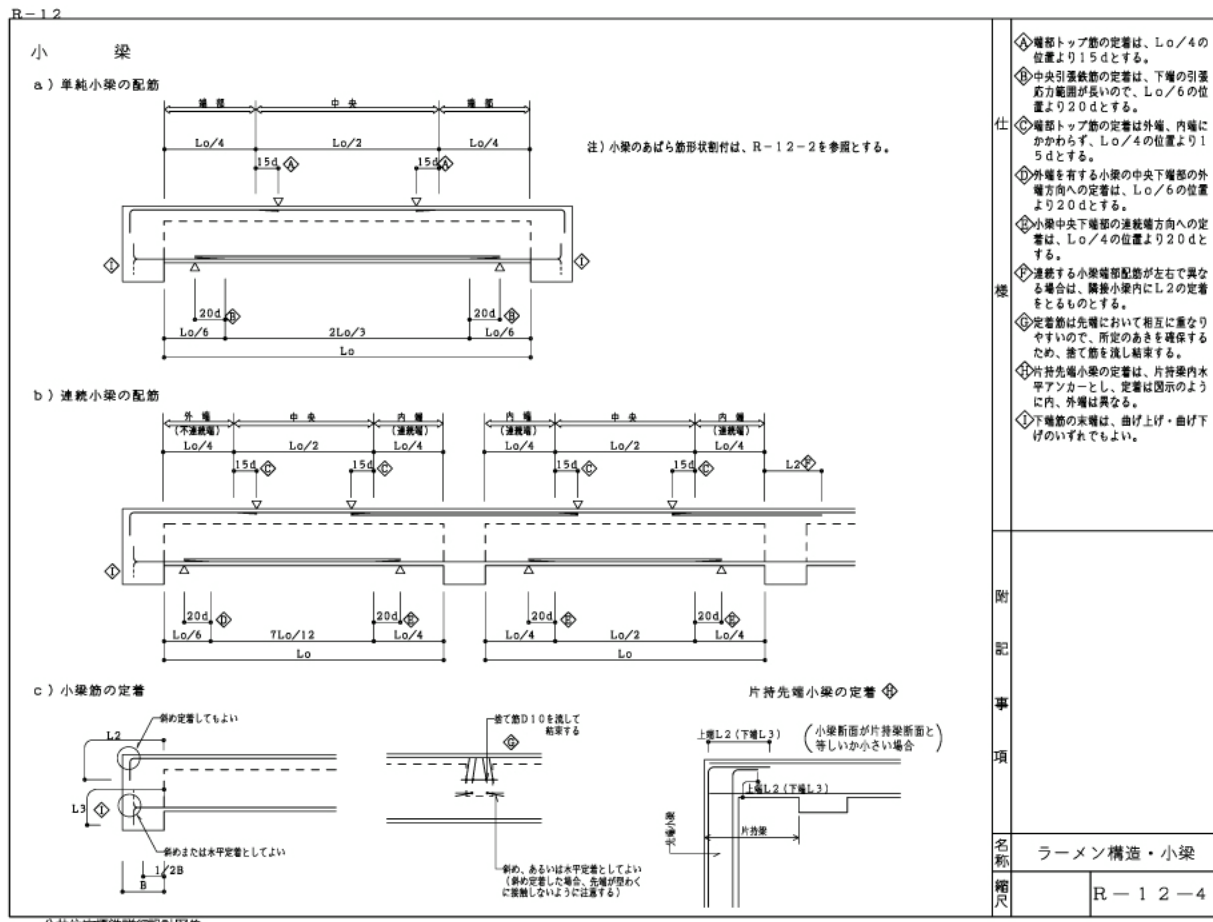
公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>上端筋は定着長さをL2とし曲げ下げ定着を優先する。隣接する梁内に定着できる場合は、柱内に定着しなくてもよい。</li> <li>外端の下端筋は、連続基礎・べた基礎の場合は自由とした位置から、独立基礎・杭基礎の場合は柱面からL2の定着をとるものとする。</li> <li>カットオフ筋の定着長さはLo/4+15d以上かつ計算により定まる定着長さ以上とする。Lo≦2,500mmの場合は通し筋とする。</li> <li>梁筋は基礎梁深さが1,500mm以上の場合はD13を、それ未満の場合はD10を用い、削り付け間隔は450mm以内とする。</li> <li>梁筋の柱内へのみ込みは30mm程度（あばら筋との結束可能な程度）とする。隣接の梁の梁筋と連続させる必要はない。</li> <li>地反力を受ける中央上端筋の定着長さは、Lo/4の位置より20dとする。</li> </ul>
附	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎梁においてはLo/4の位置で鉄筋量のチェックを行い、必要に応じて中央部の鉄筋を削り減すか、寸法を必要長さまで延長して設計図に明示すること。ただし、長期で配筋が決まる場合はR-12-4を参照のこと。</li> </ul>
名	ラーメン構造・基礎梁
縮	R-12-3



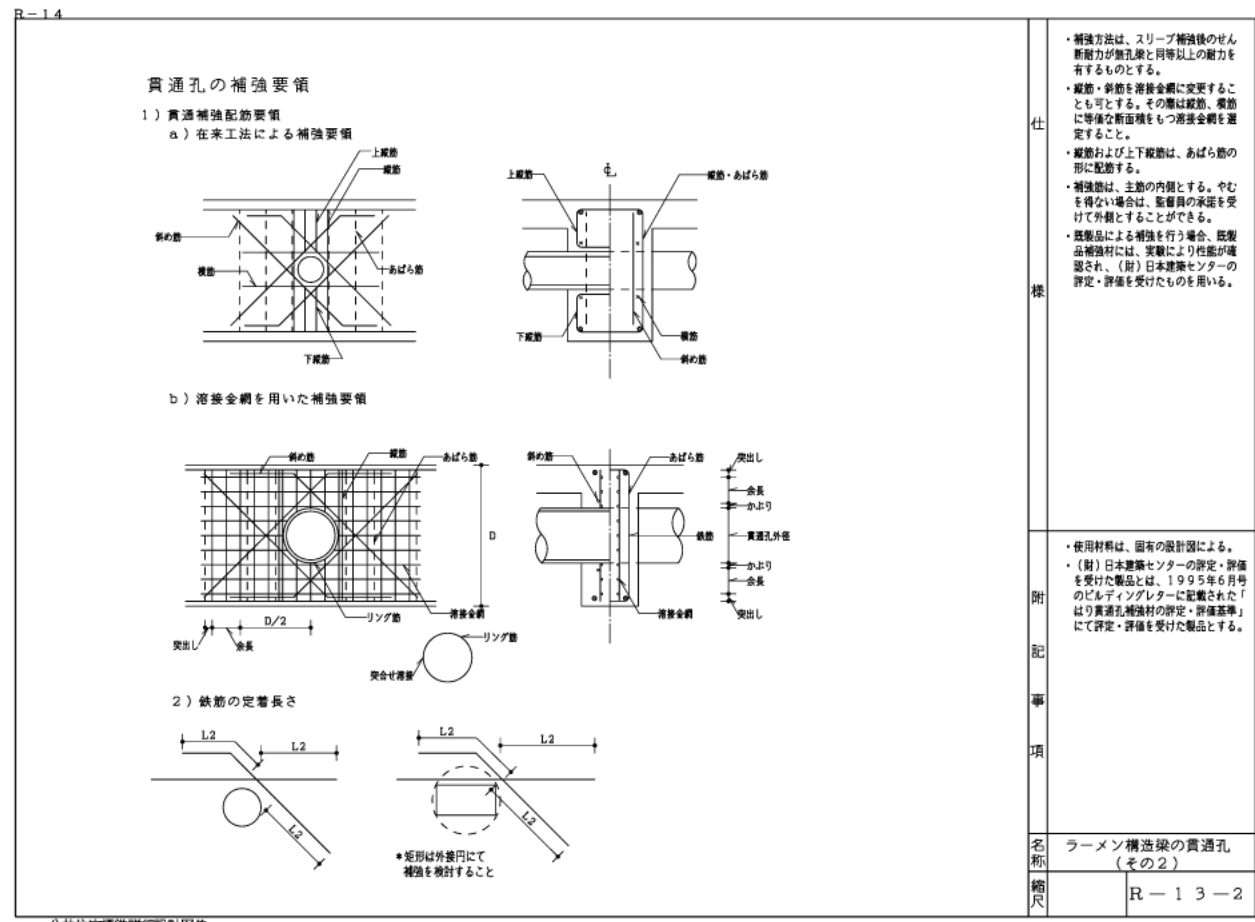
公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>柱には、貫通孔を設けてはならない。</li> <li>△Cの寸法は、表記による値を最小とし、個別設計での検討より決定する。</li> </ul>
名	ラーメン構造貫通孔 (その1)
縮	R-13-1



公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>端部トップ筋の定着は、Lo/4の位置より15dとする。</li> <li>中央引張鉄筋の定着は、下端の引張筋力配筋が長いので、Lo/6の位置より20dとする。</li> <li>端部トップ筋の定着は外端、内端にかかわらず、Lo/4の位置より15dとする。</li> <li>外端を有する小梁の中央下端部の外端方向への定着は、Lo/6の位置より20dとする。</li> <li>小梁中央下端部の連続端方向への定着は、Lo/4の位置より20dとする。</li> <li>連続する小梁端部配筋が左右で異なる場合は、隣接小梁内にL2の定着をとるものとする。</li> <li>定着筋は先端において相互に重なりやすいので、所定のあきを確保するため、嵌め筋を差し結する。</li> <li>片持先端小梁の定着は、片持梁内水平アンカーとし、定着は図示のように、外端は異なる。</li> <li>下端筋の末端は、曲げ上げ・曲げ下げのいずれでもよい。</li> </ul>
附	
名	ラーメン構造・小梁
縮	R-12-4



公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>補強方法は、スリブ補強体のせん断耐力が無孔梁と同等以上の耐力を有するものとする。</li> <li>縦筋・斜筋を接続金網に固定することも可とする。その際は縦筋、横筋に等価な断面積をもつ接続金網を選定すること。</li> <li>縦筋および上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。</li> <li>補強筋は、主筋の内側とする。やむを得ない場合は、監督員の本諾を受けて外側とすることができる。</li> <li>既製品による補強を行う場合は、既製品補強材には、実驗により性能が確認され、(財)日本建築センターの認定・評価を受けたものを用いる。</li> </ul>
附	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用材料は、固有の設計図による。</li> <li>(財)日本建築センターの認定・評価を受けた製品とは、1995年6月号のビルディングレターに記載された「はり貫通孔補強材の認定・評価基準」にて認定・評価を受けた製品とする。</li> </ul>
名	ラーメン構造梁の貫通孔 (その2)
縮	R-13-2



非耐力壁

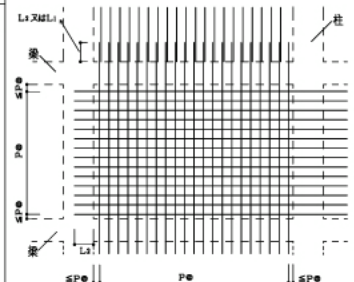
1) 非耐力壁 配筋リスト

呼称	非耐力壁					備考
	W100	W120	W150	W180	W200	
断面図 (立断面)						幅止め筋配置
縦筋	D10 250	D10 200	D10 150	D10 200	D10 200	
横筋	D10 250	D10 200	D10 150	D10 200	D10 200	
開口部補強筋	1 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	
開口部斜め補強筋	1 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	

2) コンクリートブロック壁 配筋リスト

呼称	コンクリート壁			備考
	CB100	CB150	CB200	
断面図 (立断面)				●●●は耐力壁を示す。
縦筋	D10 400	D10 400	D10 400	
横筋	D10 600	D10 600	D10 600	

3) 非耐力壁の割付け



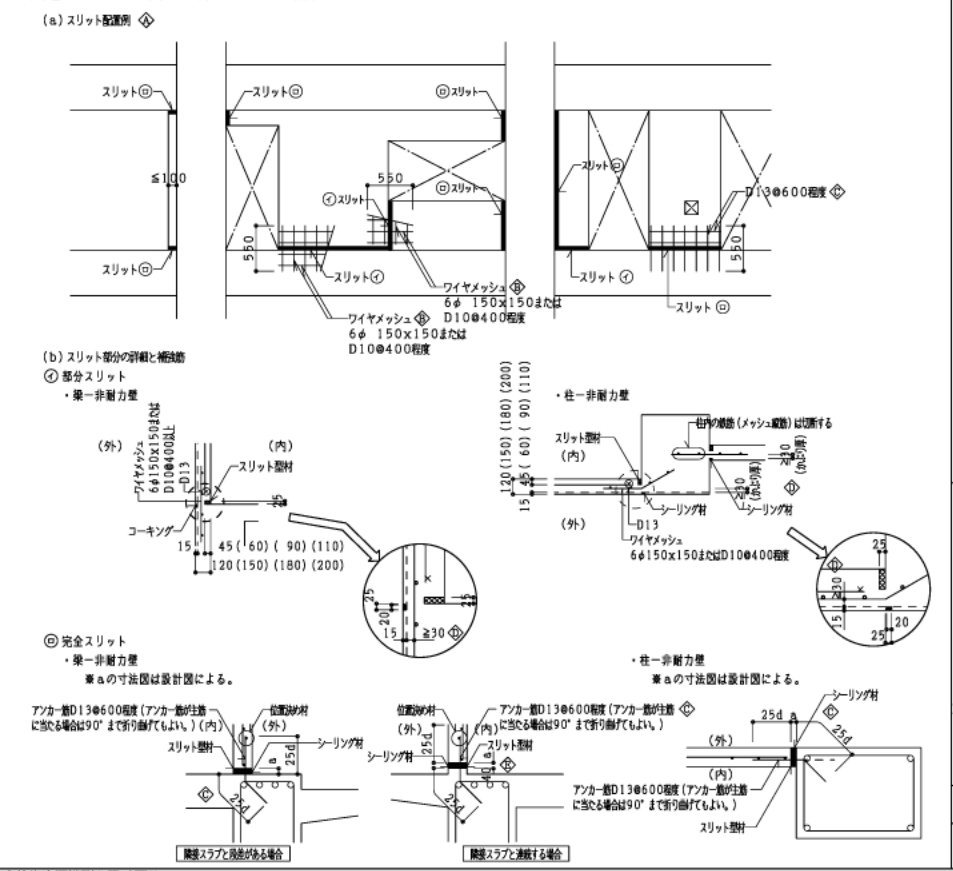
見付200mm×200mm以下の開口部については補強不要とし、縦、横筋ともに開口部を避けて割付ける。  
斜め補強に格子鉄筋を用いる場合の詳筋はR-14-2を参照のこと。  
非耐力壁の定着長さは、縦筋・横筋共に、とする。  
W180、W200の場合には、幅止め筋をD10φ1,000以内で反ける。幅止め筋は、壁面に水平方向に反ける。

壁のダブル配筋を行う場合、縦筋は縦筋の外側に配す。  
壁の幅止め筋の配筋要領は、上記以外でのダブル配筋を行う場合にも適用とする。

ラーメン構造非耐力壁 (その1)  
縮尺 R-14-1

公共住宅標準詳細設計図集

6) 完全スリット及び部分スリット要領



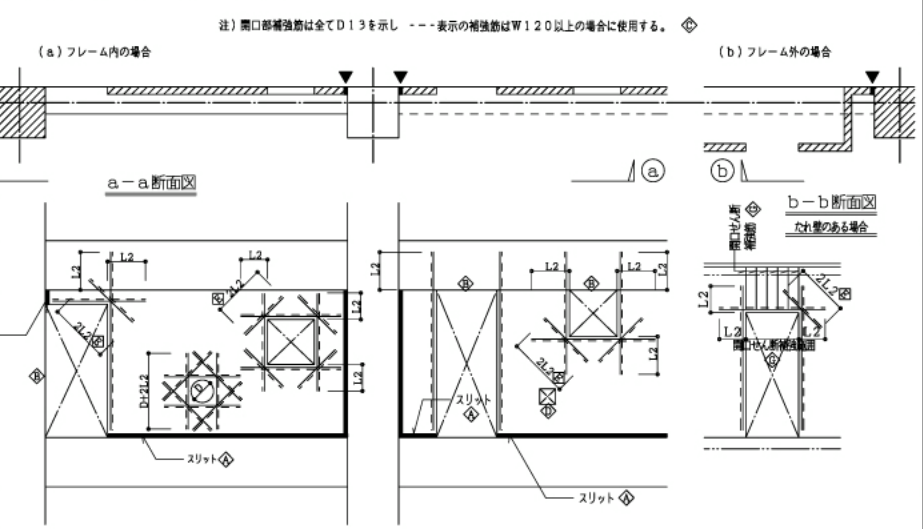
スリットの配置例を示して、実際のスリットの位置及び部分スリット、完全スリット、完全スリットの区分は設計図による。  
部分スリット部のアンカー筋はD10φ400程度又はワイヤメッシュφ150×150のいずれかでよい。  
完全スリット部のアンカー筋はD10φ600程度とし、柱への定着長さは25dとする。  
スリット部分の鉄筋等のかぶり厚さは30mm以上とする。  
隣接スラブと連続する場合のスリットは、床面から40mmの位置に反ける。

スリット位置は設計図に明示すること。  
スリット幅は、本体と同等の定着を考慮し通常の倍、二次壁の高さ(梁の場合は、二次壁の長さ)の1/10以上とする。

公共住宅標準詳細設計図集

ラーメン構造非耐力壁 (その3)  
縮尺 R-14-3

4) 非耐力壁開口補強, スリット詳細



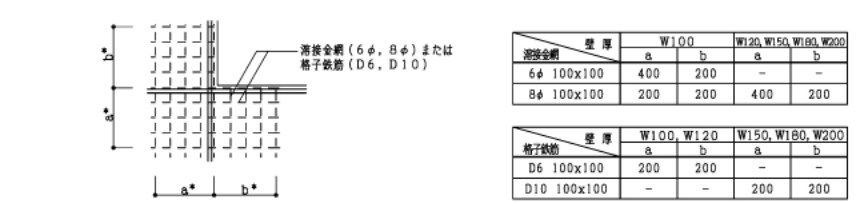
スリットの要領はR-14-3を参照する。  
開口部が柱、梁に接する場合はそれぞれ縦筋、横筋の補強筋は不要とする。  
開口補強筋はリストに表示したようにW100では1-D13、W120~W200では2-D13とする。  
見付200mm×200mm以下の開口部については補強は不要とし、縦、横筋は開口部を避けて割付ける。  
斜め筋は縦筋、横筋の本数、サイズを削減して省略することができる。斜め筋のかわりに溶接金網、格子鉄筋を用いてもよい。  
開口部周囲に、斜め筋のかわりにひびわれ防止用の溶接金網、または格子鉄筋を用いる場合、サイズおよびピッチを要に示す。  
開口部斜め補強筋は、ピッチ計算による他、D10φ100を最小とする。

スリット位置は設計図に明示すること。

ラーメン構造非耐力壁 (その2)  
縮尺 R-14-2

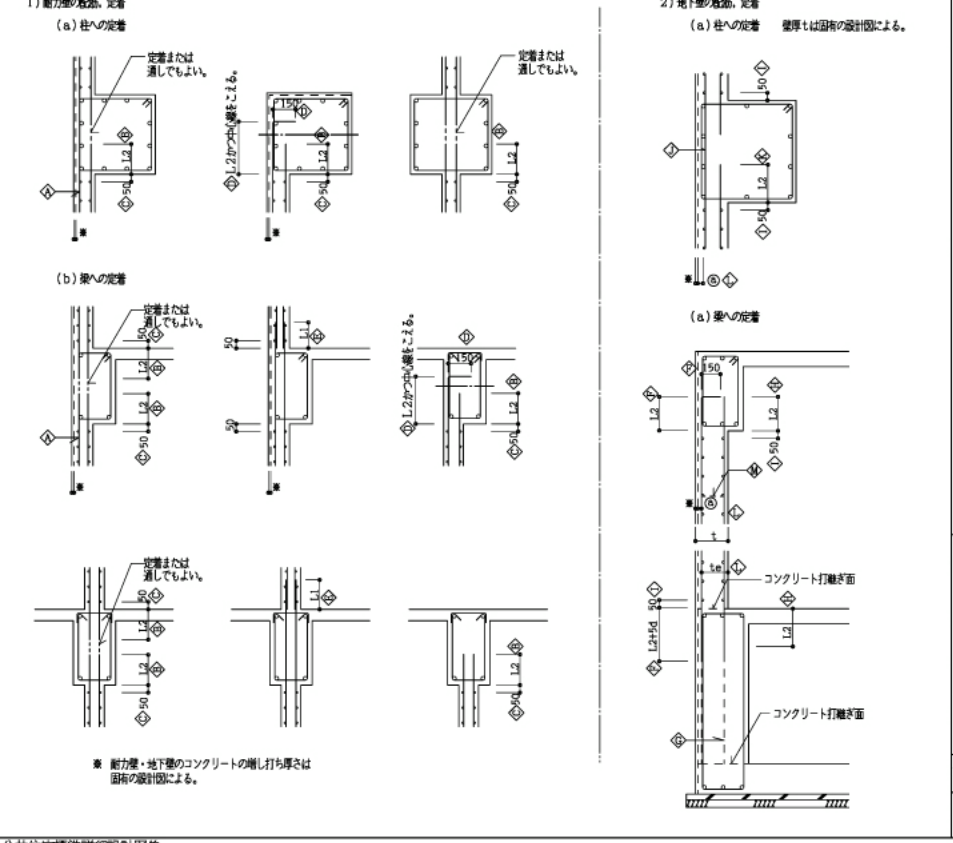
公共住宅標準詳細設計図集

5) ひび割れ防止用補強筋



●印の寸法は右表を参照のこと。

耐力壁・地下壁



外部鉄筋は柱、梁断面内では定着せず、軸手は壁面に反ける。  
内部鉄筋は柱、梁断面内に定着するか、または差し筋とする。  
鉄筋の第1鉄筋は、梁面より50mmの位置に反ける。壁筋はこれを基準として割付ける。  
外部鉄筋の未端部はL2かつ柱、梁断面内の中心線をこえて定着する。先端の折角は90°以上とし、余長は150mm以上を確保する。  
鉄筋は、梁をこえて軸手長さの分だけ立上げ、また上下の鉄筋ピッチが異なるときは軸手としてよい。  
外部鉄筋は梁内にL2かつ水平に150mmの定着をとるものとする。  
本壁梁への定着は表示の線以上でよいが鉄筋の位置の確保のため、1mピッチ程度で断面の上端まで下げる。  
内部鉄筋は梁内にL2の定着長をとるものとする。  
鉄筋の第1鉄筋は柱、梁面より50mmの位置に反ける。壁筋はこれを基準として割付ける。  
外部鉄筋は原則として柱内定着せず、壁筋で軸手を反けるものとする。  
内部鉄筋は柱内に定着し、定着長はL2とする。  
鉄筋の配置により(○)の筋が変化するので設計上の"te"の筋は配置を考慮の上決定すること。  
柱主筋D15、壁筋D16のときは、○=6.4mとなる。  
幅止め筋はD10φ1,000以内とする。

壁のダブル配筋を行う場合、縦筋は縦筋の外側に配す。ただし地下壁については、縦筋は縦筋の外側に配す。

公共住宅標準詳細設計図集

ラーメン構造耐力壁・地下壁  
縮尺 R-15-1